

第1章

全日制課程に所属する高校教員の勤務実態

1. 労働時間量

全日制課程に所属する高校教員（以下、全日制教員）における勤務の実態を、「時間量」という側面からみてみよう（以下、労働時間量、残業時間量や持帰り時間量などの概念・算出方法については、「調査の概要」第10節を参照のこと）。

はじめに、全日制教員の各期の勤務日における勤務実態について概観してみよう（表1-1-1）。超過勤務に該当する残業時間量の平均は、第1期から第3期まで、それぞれ1時間48分、1時間49分、1時間32分、持帰り時間量の平均は、それぞれ25分、24分、28分である。第3期の平均残業時間量がほかの期に比べ若干短いものの、全日制教員の平均残業時間量はおよそ1時間40分、平均持帰り時間量はおよそ25分程度である。全日制教員は、正規の勤務時間以外に、平均約2時間程度、残業や自宅への持帰りなどで学校に関する業務を行っていることがわかる。

正規の勤務時間内に業務を行った時間量と残業時間に業務を行った時間量を合計した持帰りを含まない平均労働時間量は、10時間00分である。第1期は10時間06分、第2期は10時間08分、第3期は9時間47分と第3期はほかの期に比べ多少短いものの、学校で業務を行う時間量はどの期もおよそ10時間前後のようだ。

なお、持帰り時間を含まない労働時間量を教員の属性でみたところ、性別による差がみられた（1～3期全日制全体、男性：10時間06分 女性：9時間46分）。職階別では、教頭・副校長が最も長く、校長や教諭が約10時間であるのに対して、教頭・副校長はすべての調査時期でおよそ11時間働いている。また、年齢別では、30歳以下など若い教諭がやや長くなる傾向がみられる（以上、巻末の業務記録集計表参照）。属性別の詳細な分析は、本章第4節で行うので、そちらを参考にされたい。

表1-1-1 勤務日・1日あたりの平均労働時間(持帰りを含まない)・残業時間・持帰り時間量

	労働時間(持帰りを含まない)量	残業時間量	持帰り時間量
第1期 (10/16~10/29)	10時間06分 〔10時間00分〕(1.315)	1時間48分 〔1時間38分〕(1.117)	25分 〔6分〕(0.728)
第2期 (11/6~11/19)	10時間08分 〔10時間03分〕(1.258)	1時間49分 〔1時間40分〕(1.072)	24分 〔6分〕(0.722)
第3期 (11/27~12/10)	9時間47分 〔9時間38分〕(1.168)	1時間32分 〔1時間19分〕(0.970)	28分 〔8分〕(0.723)
全体	10時間00分 〔9時間52分〕(1.256)	1時間43分 〔1時間30分〕(1.061)	26分 〔6分〕(0.724)

〔 〕内は中央値、()内は標準偏差を示す。

それでは、休日における勤務実態はどのようになっているのだろうか。休日の残業時間量・持帰り時間量を調べたところ、表1-1-2のような結果になった。

休日の残業時間量の平均は、各期でそれぞれ1時間36分、1時間26分、46分と徐々に短くなっている。全体の平均は1時間15分だった。また、持帰り時間量の平均は、各期でそれぞれ1時間28分、1時間25分、1時間26分と、調査時期によってほとんど変化はない。休日における持帰り時間量の全体の平均は、1時間26分となる。

10月16日から10月29日にあたる第1期は、ほかの期と比べ残業時間がやや長くなっているが、これは時期的にみて、学校行事や学習指導上の業務が増えたためであろう。

さらに、休日における残業時間量にみられる特徴を指摘しておこう。傾向として顕著にみられるのは、部活動顧問の有無別では運動部顧問の教諭が、主任別では生活・生徒指導主任の教諭が最も長いことである。その他、性別では女性よりも男性、職階別では講師、教諭が、休日における残業時間が長くなる傾向がみられる（以上、巻末の業務記録集計表参照）。

表1-1-2 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量

	残業時間量	持帰り時間量
第1期 (10/16~10/29)	1時間36分 〔0分〕(2.426)	1時間28分 〔30分〕(2.218)
第2期 (11/6~11/19)	1時間26分 〔0分〕(2.219)	1時間25分 〔30分〕(2.104)
第3期 (11/27~12/10)	46分 〔0分〕(1.566)	1時間26分 〔37分〕(1.987)
全体	1時間15分 〔0分〕(2.119)	1時間26分 〔30分〕(2.101)

〔 〕内は中央値、()内は標準偏差を示す。

2. 残業時間および持帰り時間の業務内容

全日制高校の教員は、出勤してから退勤するまでの時間のうち、学校で定められた正規の勤務時間以外にどのような内容の業務を行っているのだろうか。勤務日における残業時間の内訳についてみてみよう。

本調査は、教員の行う業務を「朝の業務」「授業」「授業準備」「学習指導」「成績処理」「生徒指導（集団）」「生徒指導（個別）」「部活動」「生徒会指導」「学校行事」「学年・学級経営」「学校経営」「会議・打合せ」「事務・報告書作成」「校内研修」「保護者・PTA対応」「地域対応」「行政・関係団体対応」「校務としての研修」「(校外の)会議」「その他の校務」に分類し、それぞれの業務に費やした時間量を算出することができる設計になっている（業務の分類の詳細は、「調査の概要」第9節を参照のこと）。

表1-2-1は、調査時期ごとに勤務日における残業時間の内訳を、業務内容別に調べ、上位5項目を並べた結果である。第1期では、残業時間のうち最も多くの時間が費やされているのは、朝の業務（18分）である。次いで、部活動（17分）、授業準備（15分）、学校行事（9分）とつづく。ほかの期では上位5つの業務項目に入らない「学校行事」が入っているのは、10月というこの期の時期的特徴と考えられる。

第2期についても同様にみると、最も長いのは、部活動（19分）であり、つづいて授業準備（18分）、朝の業務（17分）となっている。

第3期は、ほかの調査時期よりも成績処理（15分）に時間が費やされている。これは、12月という調査時期を考えると、学期末の定期考査などの準備や処理もあるのだろう。朝の業務、成績処理につづき、授業準備（13分）、部活動（7分）となっている。さらにこの期に特徴的な点として、部活動にかかる時間量が短いことがある。日没時刻の早まりや大きな大会の終了などにより部活動の時間が短縮される時期だと考えられる。

また、属性別の内訳では、校長や教頭・副校長の管理職は、事務・報告書作成、学校経営、会議・打合せなどが長く、設けた業務項目では分類ができない「その他の校務」が長いのも特徴だ。そのほか、教諭や講師は、主に部活動や授業準備、成績処理などに残業時間を割いている。さらに教諭を年齢別にみると、特に授業準備にかかる時間（第1期）は30歳以下27分、31~40歳19分、41~50歳15分、51歳以上12分など、年齢による差がみられた（以上、巻末の業務記録集計表参照）。

表1-2-1 勤務日の残業時間内訳

	第1期 (10/16~10/29)		第2期 (11/6~11/19)		第3期 (11/27~12/10)	
全体	1時間48分		1時間49分		1時間32分	
1	朝の業務	18分	部活動	19分	朝の業務	16分
2	部活動	17分	授業準備	18分	成績処理	15分
3	授業準備	15分	朝の業務	17分	授業準備	13分
4	学校行事	9分	学習指導	7分	部活動	7分
5	成績処理	6分	事務・報告書作成	6分	学校経営	5分

では、勤務日における持帰り時間の内訳はどうだろうか。表1-2-2が、調査時期ごとの結果である。

第1期から第3期とも、主に自宅における持帰り業務として主に時間が費やされているのは、授業準備と成績処理である。出勤前や退勤後も授業にかかわる業務を行っていることがわかる。それ以外は、その他の校務や事務・報告書作成であるが、時間量としてはそれほど長くない。

属性別の特徴とあわせてみると、校長、教頭・副校長の管理職は持帰り時間量自体が短く（校長：15分、教頭・副校長：16分）、持帰り業務を行っているのは主に教諭（29分）であることがわかる。また教諭は全回答者の8割近くを占めている（「調査の概要」第7節参照）。そのため、教諭に特徴的な授業準備や成績処理が全日制教員の持帰り時間の内訳として多く表れている。また、学級担任の有無別、部活動顧問の有無別、年齢別で持帰り時間の内訳をみたところ、差異はみられなかった（以上、巻末の業務記録集計表参照）。

次に、休日における残業時間の内訳をみてみよう。先にみた勤務日との相違はみられるのだろうか。表1-2-3は、調査時期ごとに休日における残業時間の内訳を、業務内容別に調べた結果である。第1期では、休日残業時間のうち最も多くの時間が費やされているのは、部活動（62分）である。次いで、その他の校務（6分）、授業準備（4分）とつづく。また、生徒に学習指導（4分）を行っていることもわかる。第2期も、部活動（49分）が最も長く、その他の校務（7分）、学習指導（5分）となっている。第3期は、部活動（21分）がやはり長いものの、その他の調査時期に比して、時間が短くなっている。そして、成績処理（7分）、授業準備（3分）となっている。

以上に加え、休日の残業時間量を部活動顧問の有無別にみると運動部顧問が特に長く、運動部顧問の休日における残業は主に部活動の指導であることがわかる（巻末の業務記録集計表参照）。

さらに、休日における持帰り時間の内訳を表1-2-4から調べてみよう。第1期、第2期で、持帰り業務として主に時間が費やされているのは、部活動、授業準備、成績処理である。第3期は、学期末という時期を反映したためか、成績処理（39分）が最も長く、つづいて授業準備、部活動となっている。

休日における持帰り時間は、学校で行われる残業以外の業務にあたるが、調査結果からは部活動に時間が割かれていることになる。「休日の持帰り時間」は調査の概要における概念の説明の通り、休日に学校外で業務を行っている時間を指すため、ここで上位にあがっている部活動というのは学校外で行われる試合の引率や練習などが考えられる。持帰り時間の内実として、どのような実態を示しているのか、より詳細な把握が必要だろう。

表1-2-2 勤務日の持帰り時間内訳

	第1期 (10/16~10/29)	第2期 (11/6~11/19)	第3期 (11/27~12/10)
全体	25分	24分	28分
1	授業準備 12分	授業準備 12分	成績処理 11分
2	成績処理 5分	成績処理 2分	授業準備 9分
3	その他の校務 2分	その他の校務 2分	その他の校務 1分
4	事務・報告書作成 1分	事務・報告書作成 1分	事務・報告書作成 1分
5	学校行事 0分	部活動 0分	学校経営 0分

表1-2-3 休日の残業時間内訳

	第1期 (10/16~10/29)	第2期 (11/6~11/19)	第3期 (11/27~12/10)
全体	1時間36分	1時間26分	46分
1	部活動 62分	部活動 49分	部活動 21分
2	その他の校務 6分	その他の校務 7分	成績処理 7分
3	授業準備 4分	学習指導 5分	授業準備 3分
4	学習指導 4分	授業準備 4分	その他の校務 2分
5	成績処理 3分	事務・報告書作成 2分	学習指導 2分

表1-2-4 休日の持帰り時間内訳

	第1期 (10/16~10/29)	第2期 (11/6~11/19)	第3期 (11/27~12/10)
全体	1時間28分	1時間25分	1時間26分
1	部活動 29分	部活動 26分	成績処理 39分
2	授業準備 24分	授業準備 25分	授業準備 17分
3	成績処理 12分	成績処理 9分	部活動 10分
4	その他の校務 6分	その他の校務 6分	その他の校務 4分
5	事務・報告書作成 4分	事務・報告書作成 4分	事務・報告書作成 4分

さらに、勤務日における労働時間（持帰りを含まない）の内訳を4つに分類して、時間量を確認しよう。分類の方法については、さまざまな議論がなされるところではあるが、a～uの業務を、便宜上ここでは「生徒の指導に直接的にかかわる業務」「生徒の指導に間接的ににかかわる業務」「学校の運営にかかわる業務およびその他の校務」「外部対応」の4つに分類した。分類の基準については、下記の通りである。

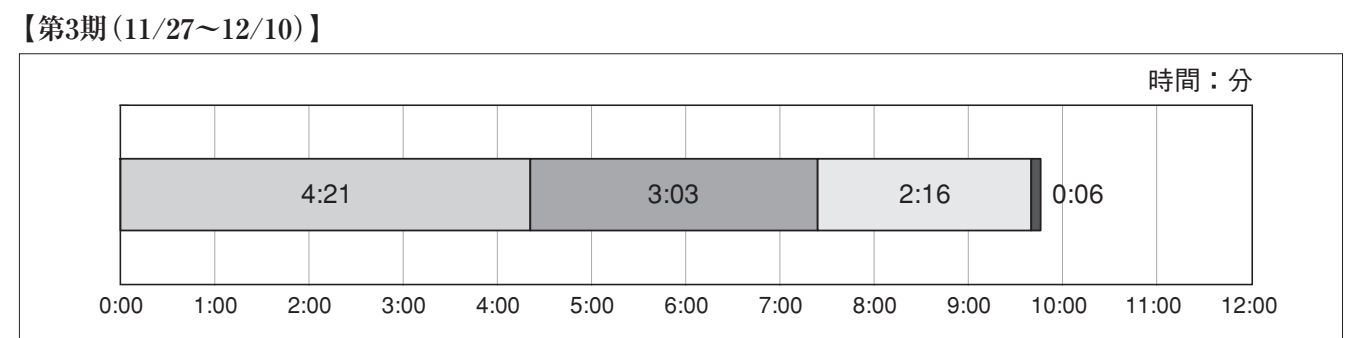
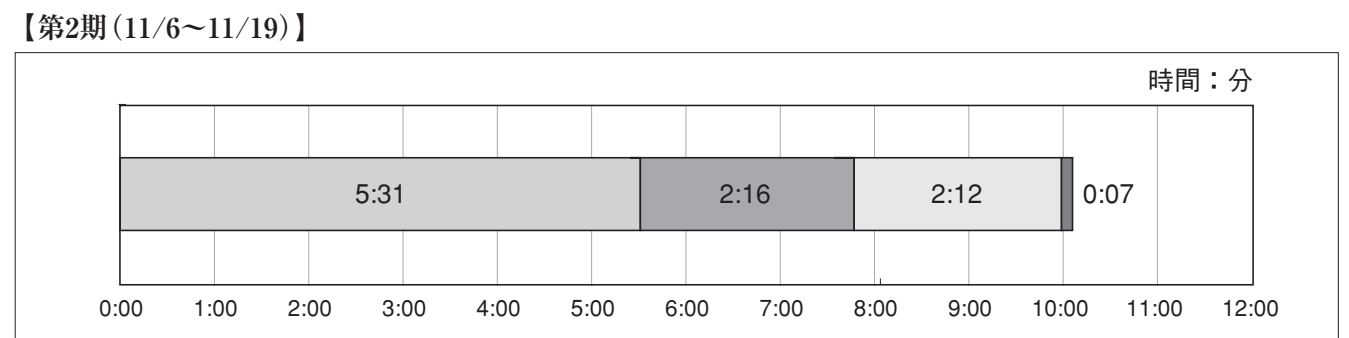
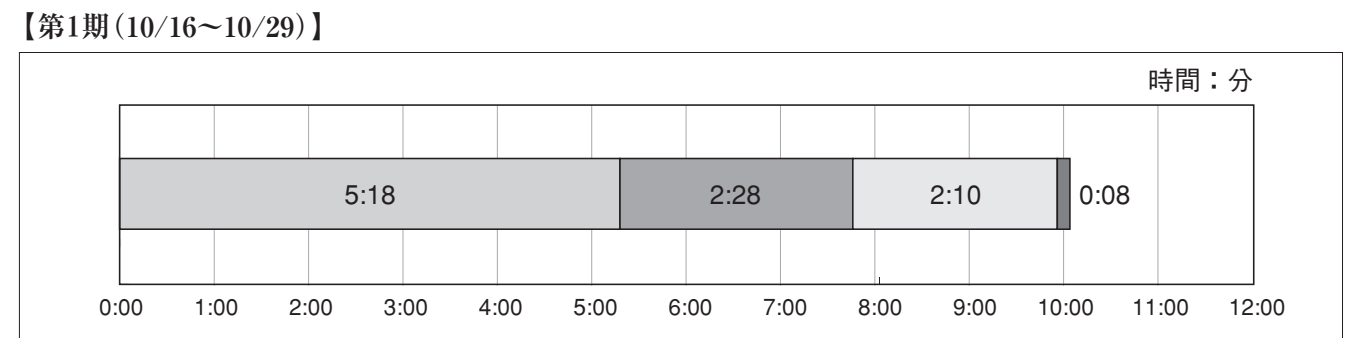
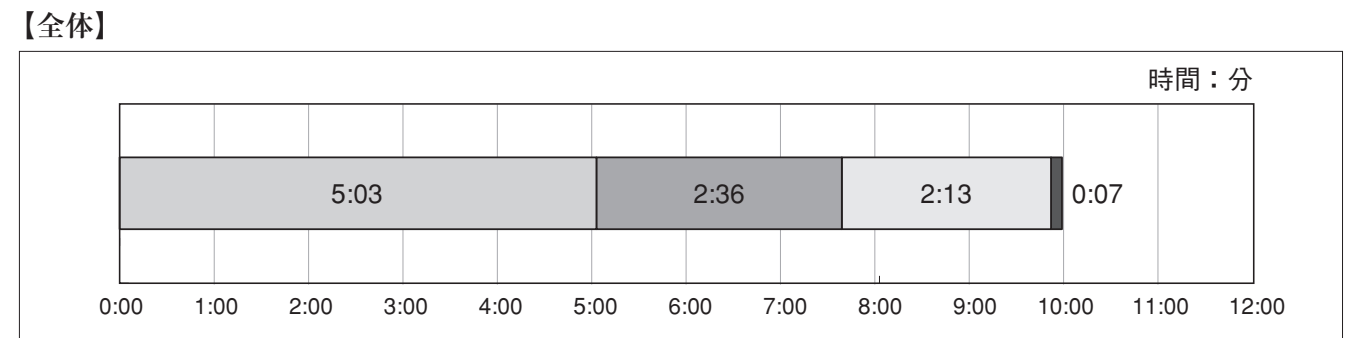
- ①生徒の指導に直接的にかかわる業務：
朝の業務、授業、学習指導、生徒指導（集団）、生徒指導（個別）、部活動、生徒会指導、学校行事
- ②生徒の指導に間接的ににかかわる業務：
授業準備、成績処理、学年・学級経営
- ③学校の運営にかかわる業務およびその他の校務：
学校経営、会議・打合せ、事務・報告書作成、校内研修、校務としての研修、会議、その他の校務
- ④外部対応：
保護者・PTA対応、地域対応、行政・関係団体対応

図1-2-1をみると、調査時期の第1期では、生徒の指導に直接的にかかわる業務が5時間18分で最も長い。つづいて、生徒の指導に間接的ににかかわる業務が2時間28分である。これらより、生徒にかかわる業務が7時間46分を占めていることがわかる。そのほか、学校の運営にかかわる業務およびその他の校務が、2時間10分である。

同様に、第2期をみると、生徒の指導に直接的にかかわる業務が5時間31分、間接的ににかかわる業務が2時間16分となっており、合計7時間47分である。そのほか、学校の運営にかかわる業務およびその他の校務は2時間12分で、第1期からほとんど変化はない。

最後に、第3期をみてみよう。生徒の指導に直接的にかかわる業務が4時間21分、間接的ににかかわる業務が3時間03分であり、前2期に比べ、直接的にかかわる業務が減り、間接的ににかかわる業務が増えている。これは、時期的に成績処理業務が増えていることが要因であろう。生徒の指導にかかわる業務は、合計7時間24分である。そのほか、学校の運営にかかわる業務およびその他の校務は2時間16分である。

図1-2-1 勤務日・1日あたり労働時間（持帰りを含まない）の内訳（4分類）



- 生徒の指導に直接的にかかわる業務
- 生徒の指導に間接的ににかかわる業務
- 学校の運営にかかわる業務およびその他の校務
- 外部対応

3. 残業時間量および持帰り時間量の分布

勤務日・1日あたりの平均残業時間量の分布を示したのが、図1-3-1である。

はじめに、調査時期全体の平均をみてみよう。残業時間量として分布が集中しているのは、31分～1時間以下である(20.1%)。残業をまったくしない教員はほとんどおらず、分布をみると、0分が1.1%、1時間以下(0分を除く)の教員は29.0%、1時間01分～2時間以下の教員は36.9%、2時間01分～3時間以下の教員は21.6%、3時間01分～4時間以下の教員は8.4%となっている。一方、勤務時間の半分以上、すなわち、4時間を超える残業をしている者の割合は3.1%である。

次に、第1期では、残業時間0分が0.9%、1時間以下(0分を除く)の教員は27.8%、1時間01分～2時間以下の教員は34.7%、2時間01分～3時間以下の教員は23.3%、3時間01分～4時間以下の教員は9.3%、4時間を超える教員は4.0%である。

また、第2期では、残業時間0分が1.0%、1時間以下(0分を除く)の教員は24.6%、1時間01分～2時間以下の教員は37.3%、2時間01分～3時間以下の教員は23.9%、3時間01分～4時間以下の教員は9.8%、4時間を超える教員は3.5%である。

最後に、第3期であるが、残業時間0分は1.4%、1時間以下(0分を除く)の教員は34.4%、1時間01分～2時間以下の教員は38.4%、2時間01分～3時間以下の教員は17.8%、3時間01分～4時間以下の教員は6.2%、4時間を超える教員は1.9%である。第3期は、ほかの期に比べ、1時間以下(0分を除く)の教員が多くなっている。つまり、ほかの期に比べ、残業時間量が短い教員が多い。

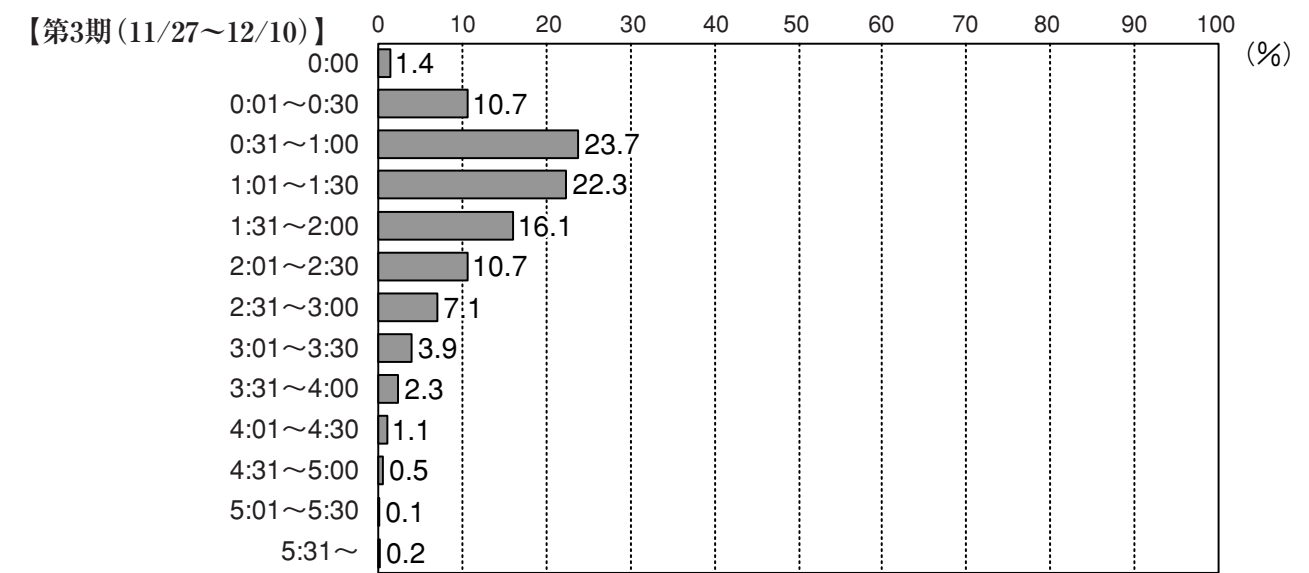
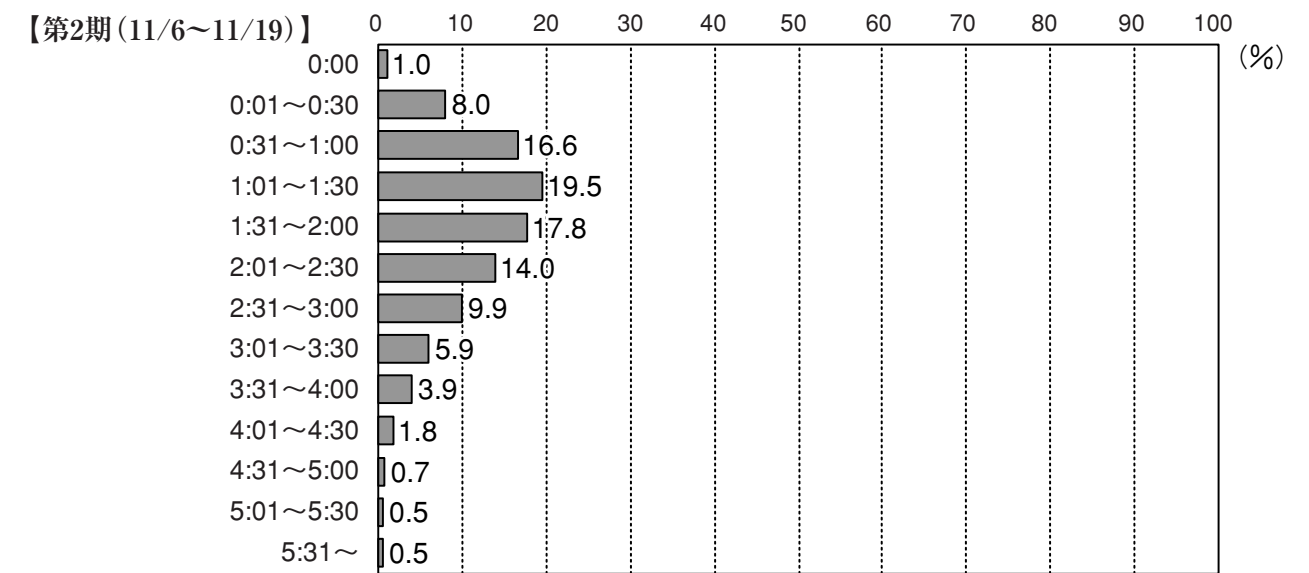
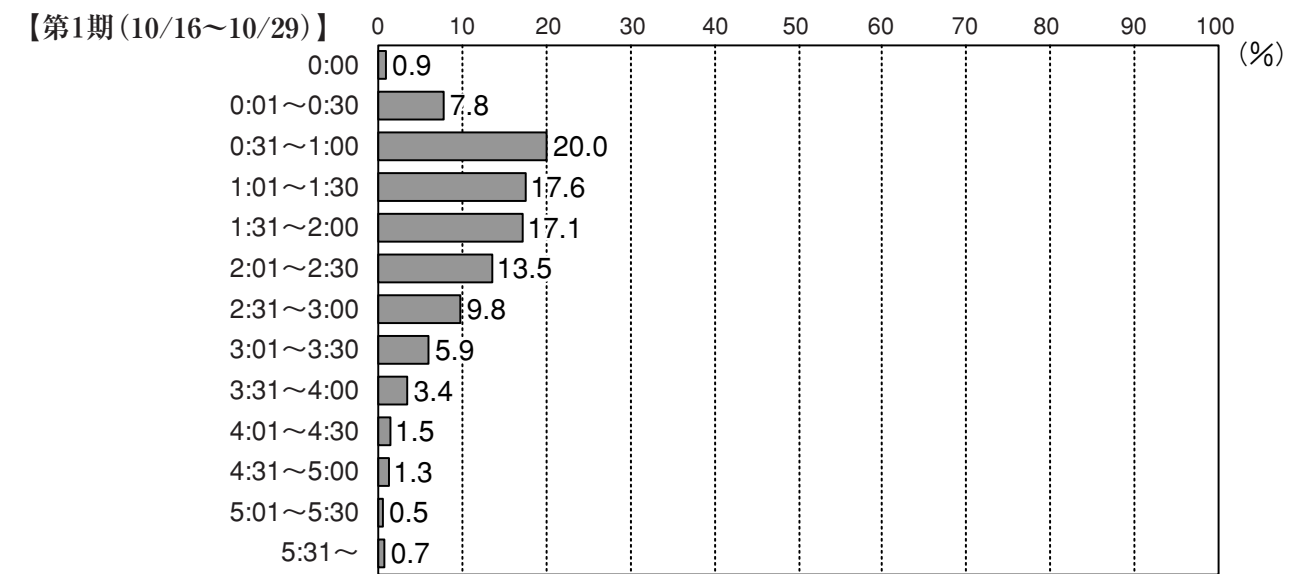
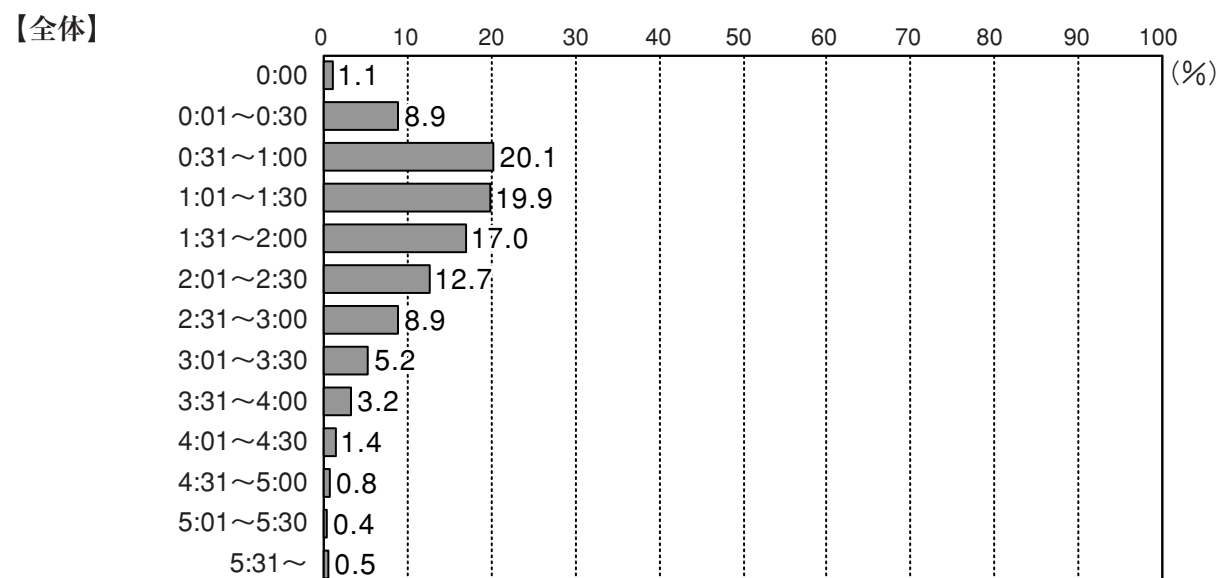


図1-3-1 勤務日・1日あたりの平均残業時間量の分布



※時間量は「時間:分」を示す。たとえば「1:01～1:30」は「1時間01分～1時間30分」。

※時間量は「時間:分」を示す。たとえば「1:01～1:30」は「1時間01分～1時間30分」。

それでは、勤務日・1日あたりの平均持帰り時間量の分布はどのようになっているのだろうか。

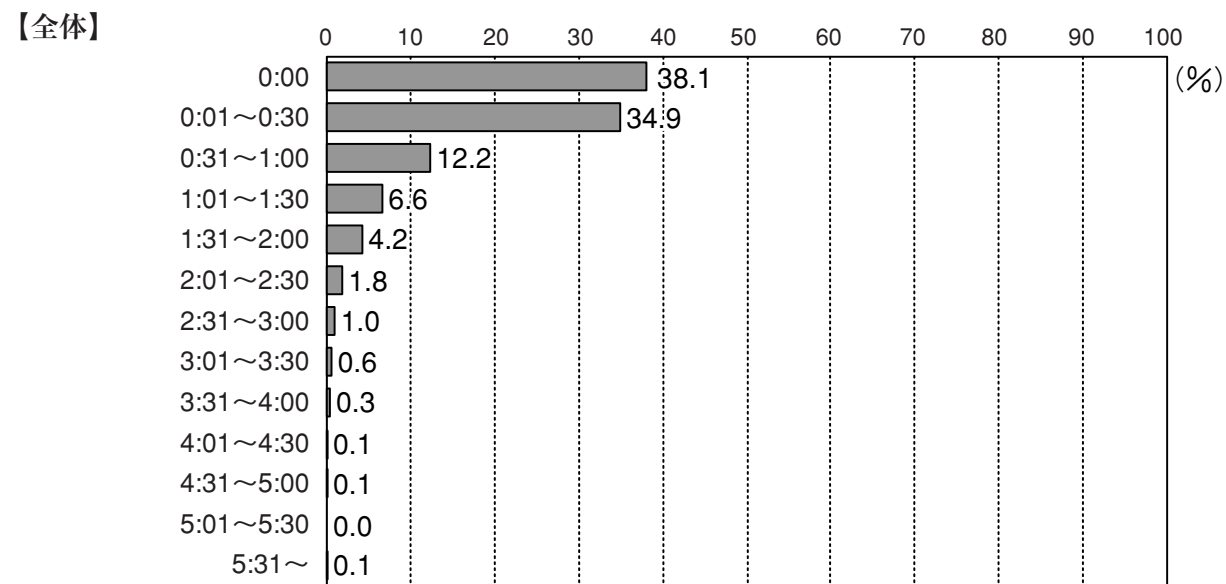
調査時期全体の平均をみてみよう(図1-3-2)。持帰り時間量として分布が集中しているのは、30分以下(0分を含む)である。勤務日に持帰り仕事を行わない教員は4割程度存在するが、6割の教員は一定程度家に持帰って学校に關係する業務を行っている。それぞれの時間カテゴリーでは、0分が38.1%、1時間以下(0分を除く)の教員は47.1%、1時間01分~2時間以下の教員は10.8%、2時間01分~3時間以下の教員は2.8%、3時間01分~4時間以下の教員は0.9%となっている。一方、勤務時間の半分以上、すなわち4時間を超える持帰り業務をしている者の割合は0.3%である。持帰り時間量の分布の特徴は、学校での残業時間に比して、0分の割合は増加していることから、正規の勤務時間外の業務は主に残業によって行われていることがうかがえる。また、2時間以下くらいまでが主な分布の範囲であり、極端に持帰り時間量が高い教員は、少数にとどまっている。

つづいて、調査時期別に詳しくみていこう。第1期は、持帰り時間0分が39.5%、1時間以下(0分を除く)の教員は46.0%、1時間01分~2時間以下の教員は10.3%、2時間01分~3時間以下の教員は3.0%、3時間01分~4時間以下の教員は0.8%、4時間を超える教員は0.2%である。

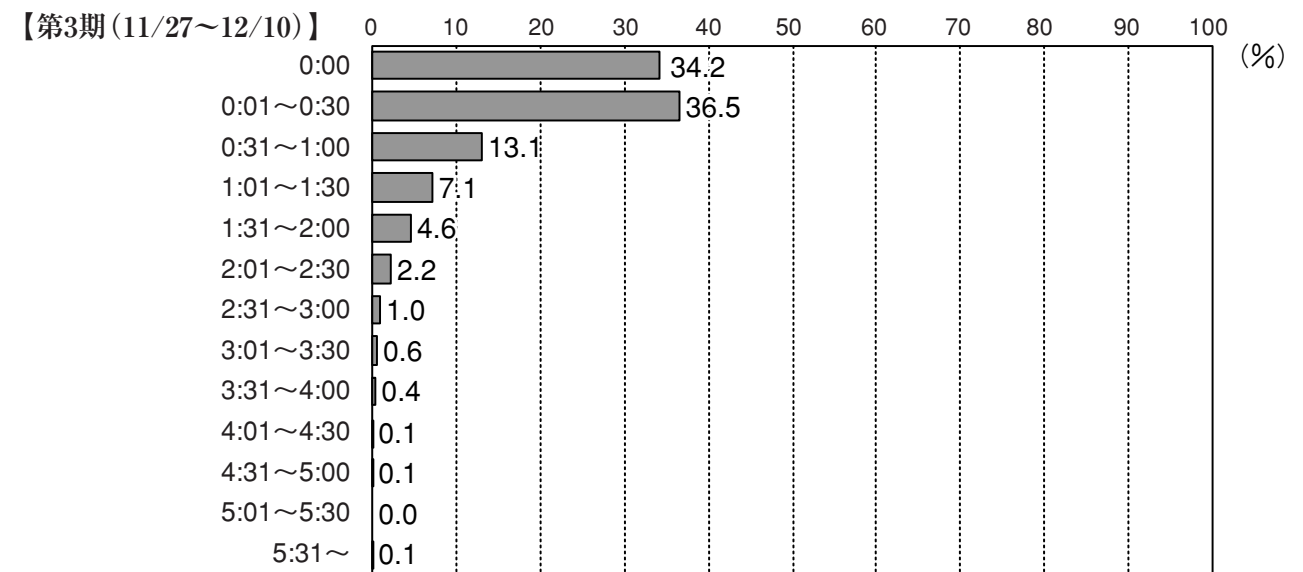
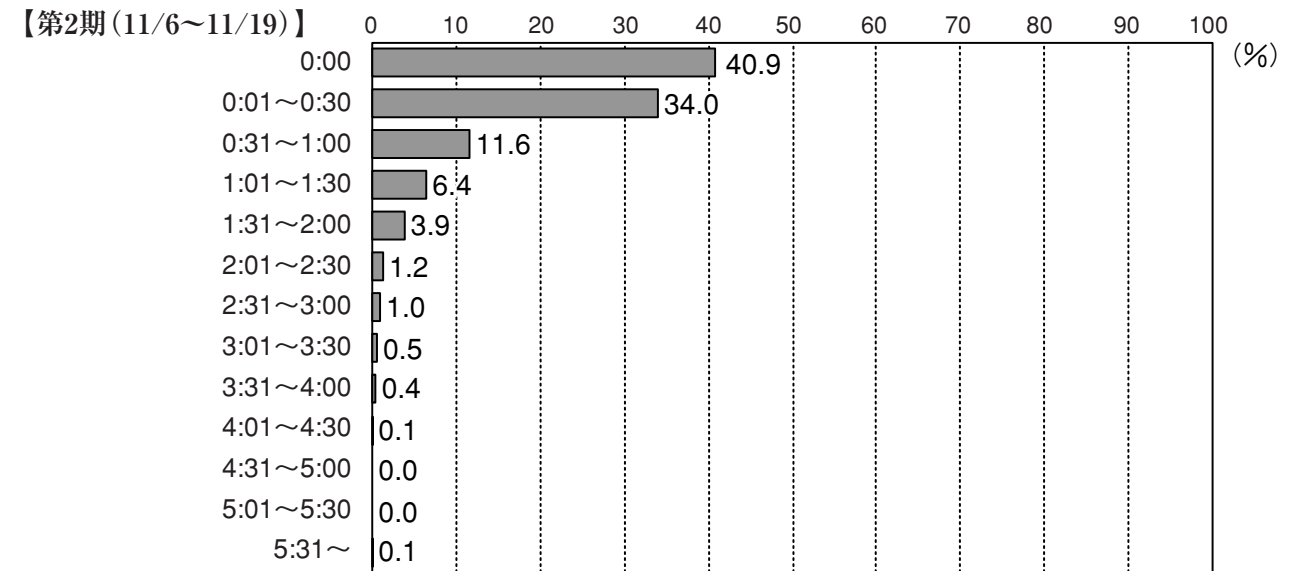
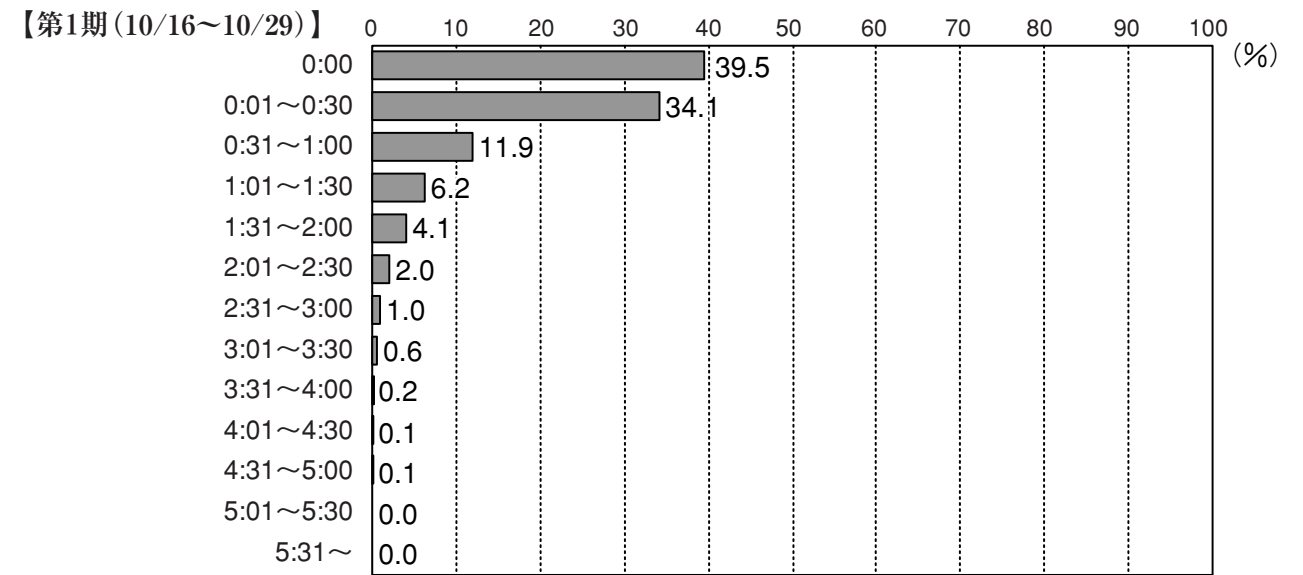
また、第2期の分布では、持帰り時間0分が40.9%、1時間以下(0分を除く)の教員は45.6%、1時間01分~2時間以下の教員は10.3%、2時間01分~3時間以下の教員は2.2%、3時間01分~4時間以下の教員は0.9%、4時間を超える教員は0.2%である。

最後に、第3期であるが、持帰り時間0分は34.2%、1時間以下(0分を除く)の教員は49.6%、1時間01分~2時間以下の教員は11.7%、2時間01分~3時間以下の教員は3.2%、3時間01分~4時間以下の教員は1.0%、4時間を超える教員は0.3%である。第3期は持帰り時間が0分の教員が減っており、1時間以下ではあるが持帰りで仕事を行う比率が増えている。

図1-3-2 勤務日・1日あたりの平均持帰り時間量の分布



※時間量は「時間:分」を示す。たとえば「1:01~1:30」は「1時間01分~1時間30分」。



※時間量は「時間:分」を示す。たとえば「1:01~1:30」は「1時間01分~1時間30分」。

さらに、休日・1日あたりの平均残業時間量の分布を確認しよう。その結果を示したのが、図1-3-3である。調査時期全体の平均をみると、0分が半数以上となっている(59.4%)。休日の残業時間の分布は短時間残業をしている教員から長時間残業をしている教員まで、数パーセントずつ広く分散しているものの、0分の教員が主である。1時間以下(0分を除く)の教員は7.2%、1時間01分~2時間以下の教員は10.4%、2時間01分~3時間以下の教員は6.9%、3時間01分~4時間以下の教員は4.8%、4時間を超える教員は11.3%である。一部の教員は休日にも長時間学校で業務を行っていることも特徴的である。

次に、第1期では、休日の残業時間0分が53.7%、1時間以下(0分を除く)の教員は7.4%、1時間01分~2時間以下の教員は10.2%、2時間01分~3時間以下の教員は7.9%、3時間01分~4時間以下の教員は5.2%、4時間を超える教員は15.7%である。

また、第2期の分布では、休日の残業時間0分が55.7%、1時間以下(0分を除く)の教員は6.9%、1時間01分~2時間以下の教員は10.5%、2時間01分~3時間以下の教員は8.0%、3時間01分~4時間以下の教員は5.6%、4時間を超える教員は13.4%である。

最後に、第3期であるが、休日の残業時間0分は68.2%、1時間以下(0分を除く)の教員は7.4%、1時間01分~2時間以下の教員は10.5%、2時間01分~3時間以下の教員は5.0%、3時間01分~4時間以下の教員は3.7%、4時間を超える教員は5.3%である。

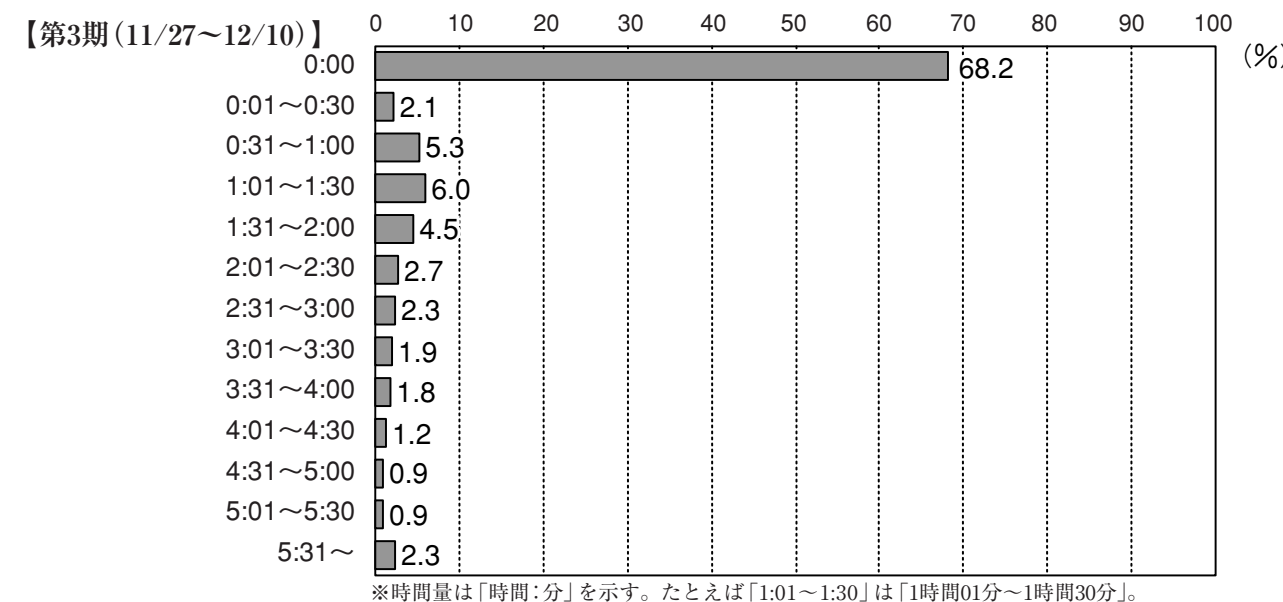
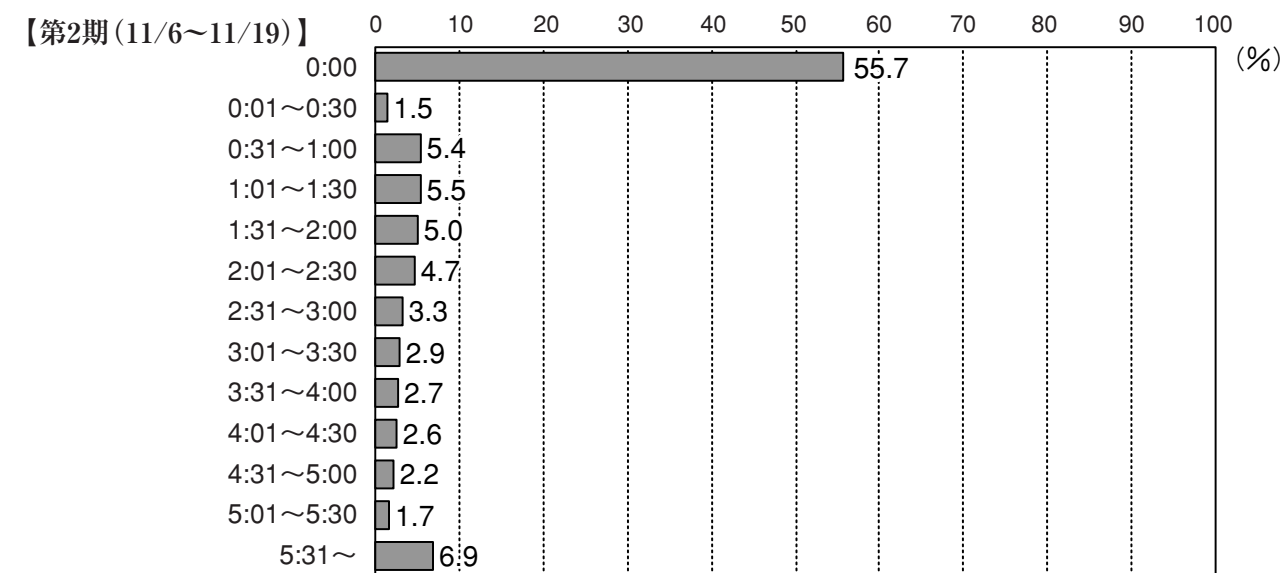
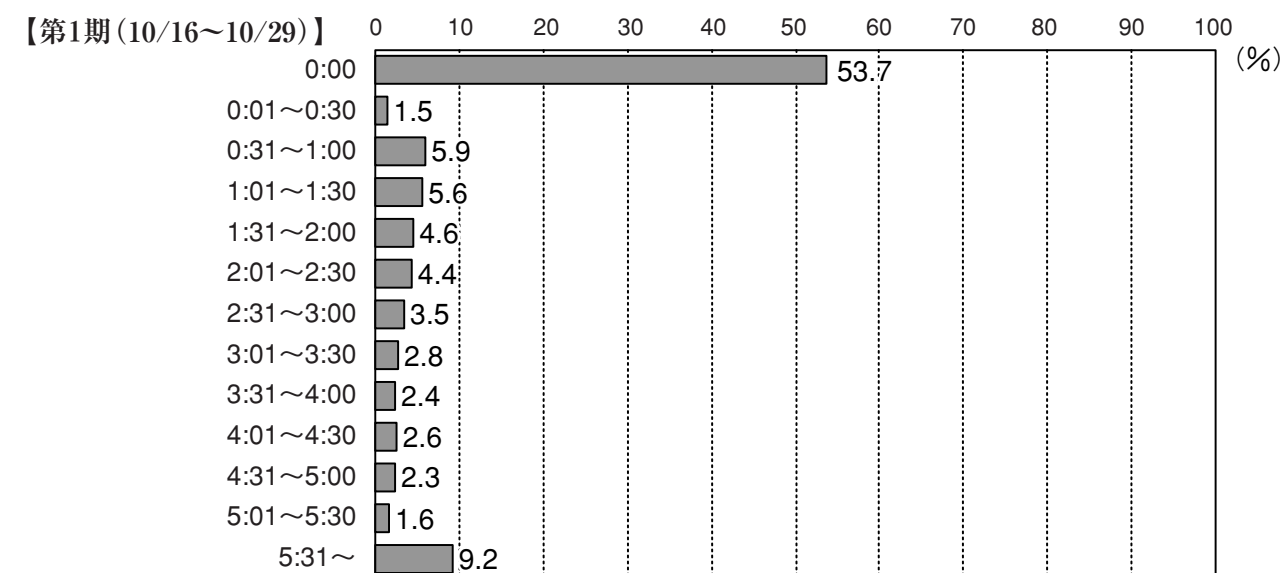
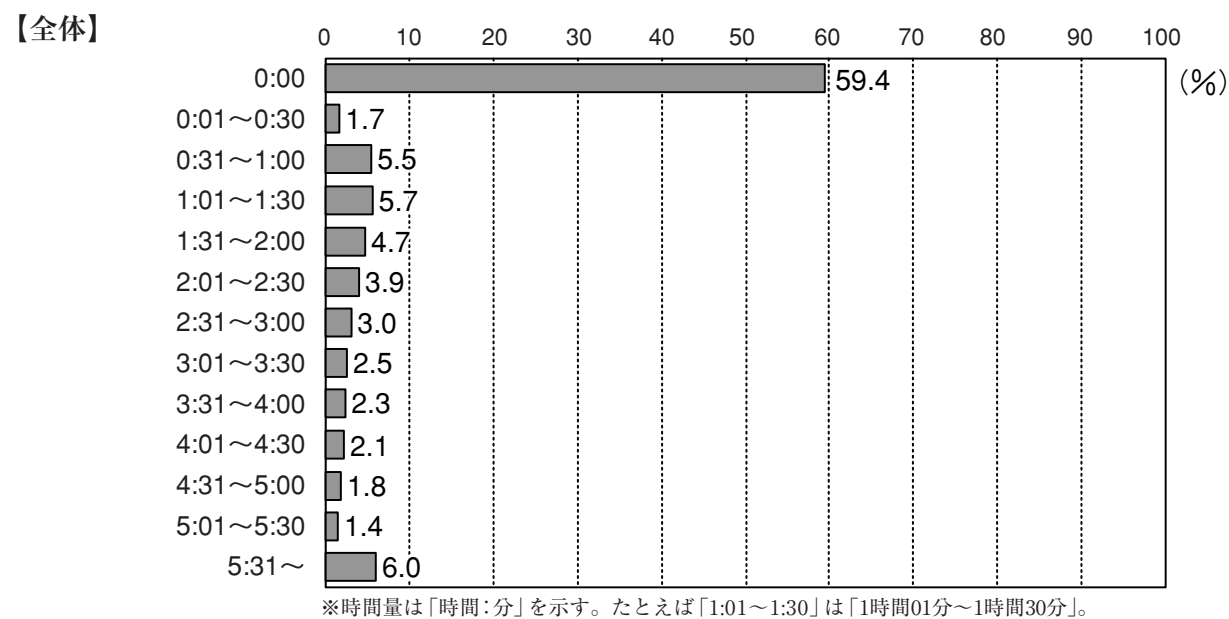


図1-3-3 休日・1日あたりの平均残業時間量の分布



※時間量は「時間:分」を示す。たとえば「1:01~1:30」は「1時間01分~1時間30分」。

次に、休日・1日あたりの平均持帰り時間量についてみてみよう。その結果を示したのが、図1-3-4である。

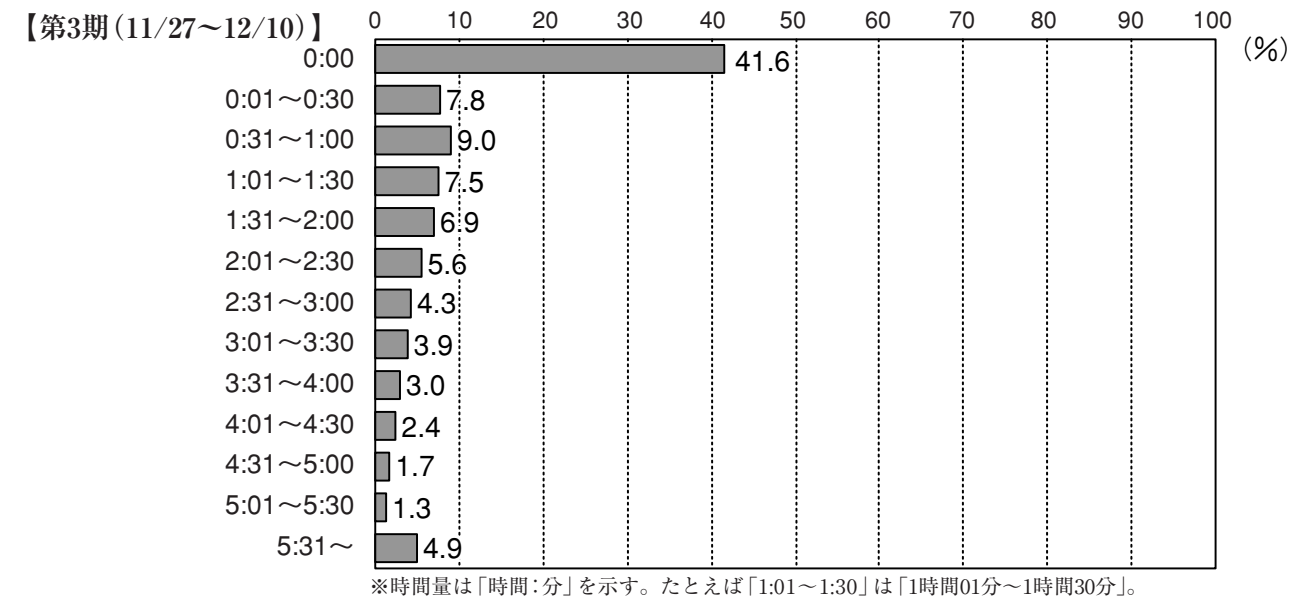
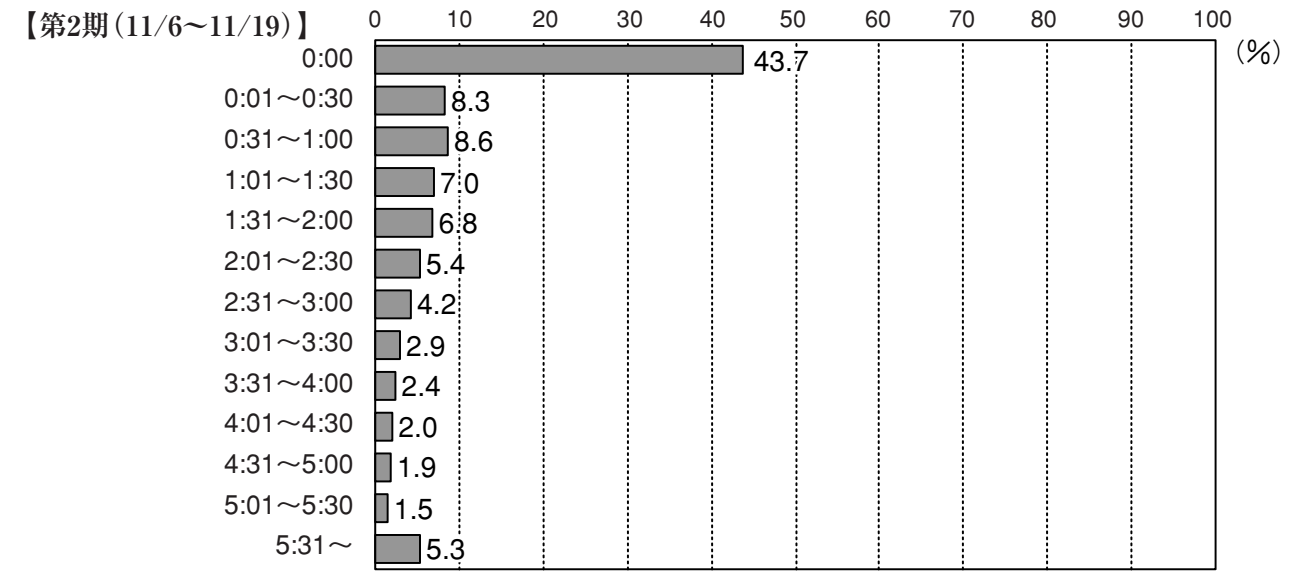
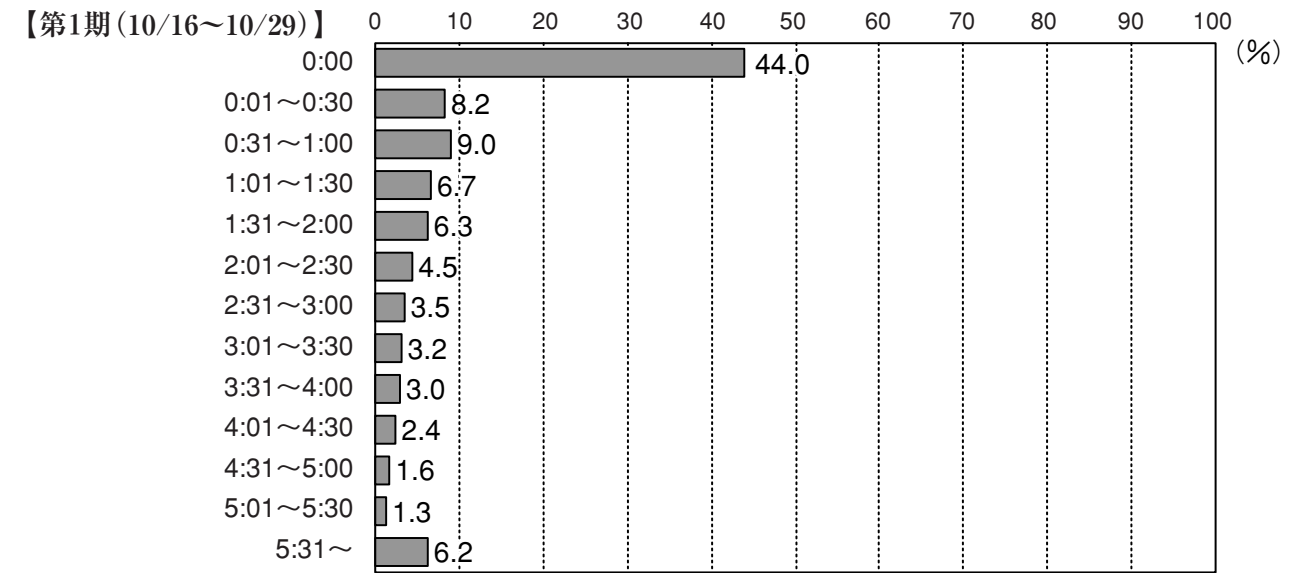
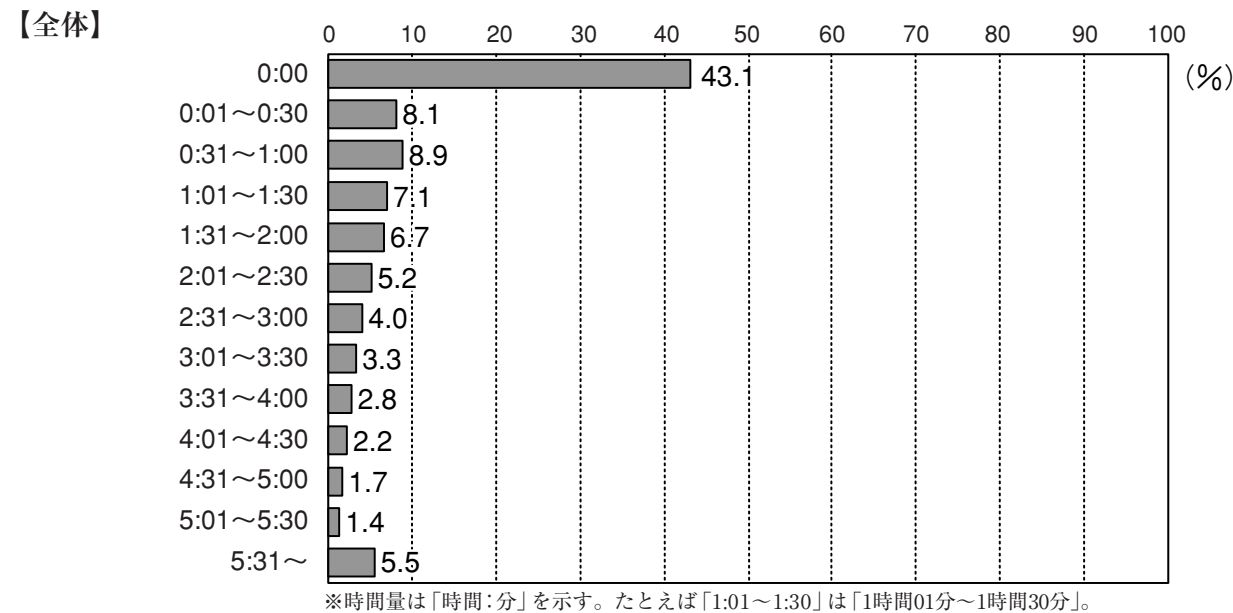
まず第1期から第3期までをまとめた全体の分布をみると、0分が43.1%となっており、勤務日(図1-3-2)よりもやや多くなっている。休日でも半数ほどの教員が持帰り仕事を行っているが、その時間は教員間での差が大きく、1時間以下(0分を除く)の教員は17.0%、1時間01分~2時間以下の教員は13.8%、2時間01分~3時間以下の教員は9.2%、3時間01分~5時間以下の教員は10.0%、5時間を超える教員は6.9%存在する。

次に、第1期の分布をみると、0分が44.0%となっており、勤務日よりわずかに多い(図1-3-2【第1期】)。休日でも約半数の教員が持帰り仕事を行っており、その時間は教員間で差が大きい。1時間以下(0分を除く)の教員は17.2%、1時間01分~2時間以下の教員は13.0%、2時間01分~3時間以下の教員は8.0%、3時間01分~5時間以下の教員は10.2%、5時間以上の教員は7.5%存在する。

また、第2期の分布をみると、0分が43.7%となっており、勤務日よりわずかに多い(図1-3-2【第2期】)。休日でも約半数の教員が持帰り仕事を行っており、1時間以下(0分を除く)の教員は16.9%、1時間01分~2時間以下の教員は13.8%、2時間01分~3時間以下の教員は9.6%、3時間01分~5時間以下の教員は9.2%、5時間を超える教員は6.8%存在する。

最後に第3期の分布をみると、0分が41.6%となっており、勤務日よりも多くなっている(図1-3-2【第3期】)。休日でも約半数の教員が持帰り仕事を行っており、1時間以下(0分を除く)の教員は16.8%、1時間01分~2時間以下の教員は14.4%、2時間01分~3時間以下の教員は9.9%、3時間01分~5時間以下の教員は11.0%、5時間を超える教員は6.2%存在する。

図1-3-4 休日・1日あたりの平均持帰り時間量の分布



4. 属性別にみた労働時間量

これまでの、全日制教員全体における労働時間量（主に残業時間量、持帰り時間量）、その内訳、分布を中心にみてきた。しかし、すべての教員が同じように業務を行っているとは限らない。学校で担う校務分掌や職責、教員としての経験などによって、その内実は異なっていることが考えられる。そこで、さまざまな属性別に残業時間量と持帰り時間量の実態をみってみる。

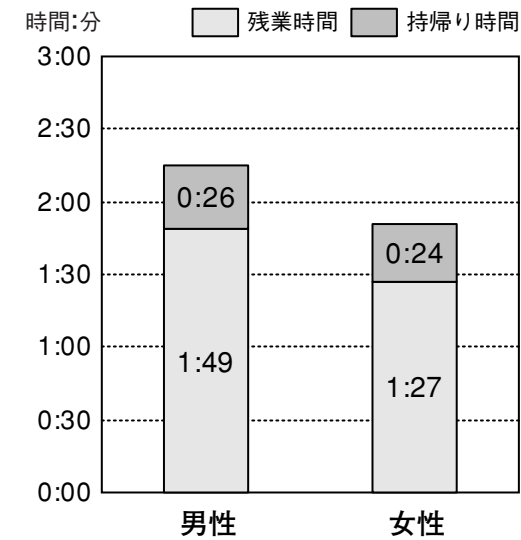
以下、勤務日と休日それぞれの残業時間量および持帰り時間量を、「性別」「年齢別」「職階別」「主任別」「部活動顧問の有無別」「学級担任別」「担当教科別」の順にみていく。

(1) 性別

まず、勤務日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量について性別ごとにみてみよう（図1-4-1）。残業時間量については男性教員が平均1時間49分、女性教員が平均1時間27分と男性教員のほうが長くなっている。一方、持帰り時間量については男性教員平均26分、女性教員平均24分とほとんど差がみられない。

次に、休日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量についてみてみよう（図1-4-2）。残業時間量については男性教員が平均で1時間27分、女性教員が45分と、勤務日と同様に男性教員のほうが長くなっている。男性教員は、休日も勤務日に匹敵する程度の残業を行っており、女性教員は勤務日より残業時間が減っている。ただし、中央値をみると男女ともに残業時間は0分となっており、休日残業を行う教員は一部の教員に限られていることがわかる。特に男性教員では標準偏差の値が大きく、教員によって残業時間量に大きくバラつきがあることがうかがえる。一方、持帰り時間量については男性教員で平均1時間31分、女性教員で平均1時間14分と男女で大きな差はみられない。男女ともに勤務日より休日のほうが持帰りの時間量が増えている点も特徴である。男性教員の場合、残業時間量と同様に標準偏差の値が大きく、教員によって持帰り時間量に大きくバラつきのあることがうかがえる。

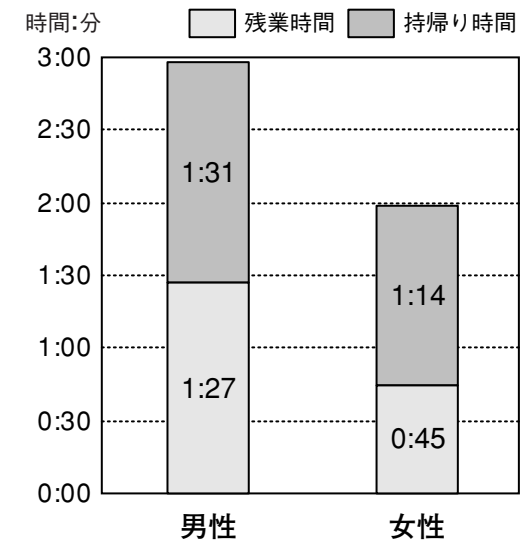
図1-4-1 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量（性別）



		男性	女性
残業時間	平均値	1:49	1:27
	中央値	1:39	1:15
	標準偏差	1.067	1.003
持帰り時間	平均値	0:26	0:24
	中央値	0:06	0:07
	標準偏差	0.763	0.620
度数		9216	3820

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

図1-4-2 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量（性別）



		男性	女性
残業時間	平均値	1:27	0:45
	中央値	0:00	0:00
	標準偏差	2.272	1.590
持帰り時間	平均値	1:31	1:14
	中央値	0:30	0:30
	標準偏差	2.230	1.731
度数		9157	3814

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

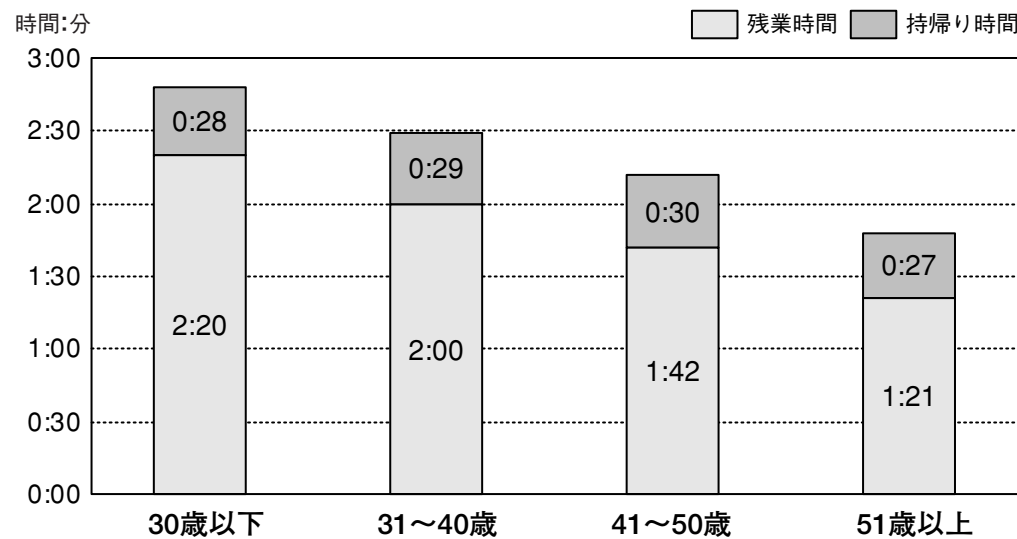
(2) 年齢別

さらに、年齢別に残業時間量・持帰り時間量の状況を見てみよう。ただし、教員を年齢別に区切ると、年齢層によっては職階の影響が考えられる。たとえば 51歳以上には管理職が多く、この年齢で労働時間量に一定の傾向が表れた場合に、年齢の影響というよりも職階の影響だとも考えられる。そこで、教諭のみを取り出したうえで、年齢別で残業時間量、持帰り時間量の順に分析を行う。

まず、教諭の年齢別に勤務日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-3)。残業時間量の平均については30歳以下が2時間20分、31~40歳が2時間00分、41~50歳が1時間42分、51歳以上が1時間21分と、若い年齢の教諭ほど残業時間量が高い傾向となっている。一方、持帰り時間量の平均については、30歳以下が28分、31~40歳が29分、41~50歳が30分、51歳以上が27分と年齢による差はほとんどみられない。

次に、勤務日と同じ手順で年齢別の休日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-4)。残業時間量の平均は、30歳以下で1時間39分、31~40歳で1時間41分、41~50歳で1時間19分、51歳以上で55分と、勤務日同様若い年齢の教諭で残業時間量が高くなる傾向がみられる。ただし、中央値をとるといずれも0分となっており、休日の残業が一部の教諭に限られていることが読み取れる。また、持帰り時間量の平均をみると、30歳以下が1時間50分、31~40歳が1時間32分、41~50歳が1時間39分、51歳以上が1時間27分となっており、年齢別に明らかな傾向といったものは認められない。

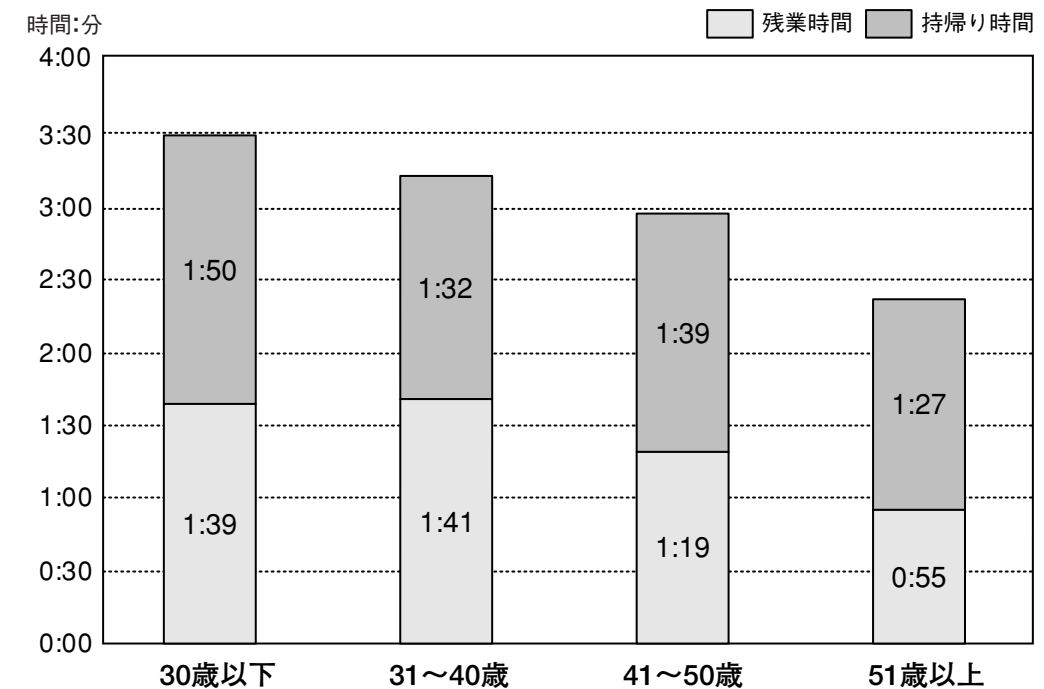
図1-4-3 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・年齢別)



		30歳以下	31~40歳	41~50歳	51歳以上
残業時間	平均値	2:20	2:00	1:42	1:21
	中央値	2:15	1:52	1:33	1:11
	標準偏差	1.056	1.140	1.012	0.873
持帰り時間	平均値	0:28	0:29	0:30	0:27
	中央値	0:09	0:10	0:10	0:06
	標準偏差	0.754	0.739	0.790	0.755
度数		808	2639	4496	2699

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

図1-4-4 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・年齢別)



		30歳以下	31~40歳	41~50歳	51歳以上
残業時間	平均値	1:39	1:41	1:19	0:55
	中央値	0:00	0:00	0:00	0:00
	標準偏差	2.328	2.460	2.120	1.779
持帰り時間	平均値	1:50	1:32	1:39	1:27
	中央値	0:45	0:40	0:48	0:30
	標準偏差	2.488	2.208	2.224	1.976
度数		802	2613	4481	2689

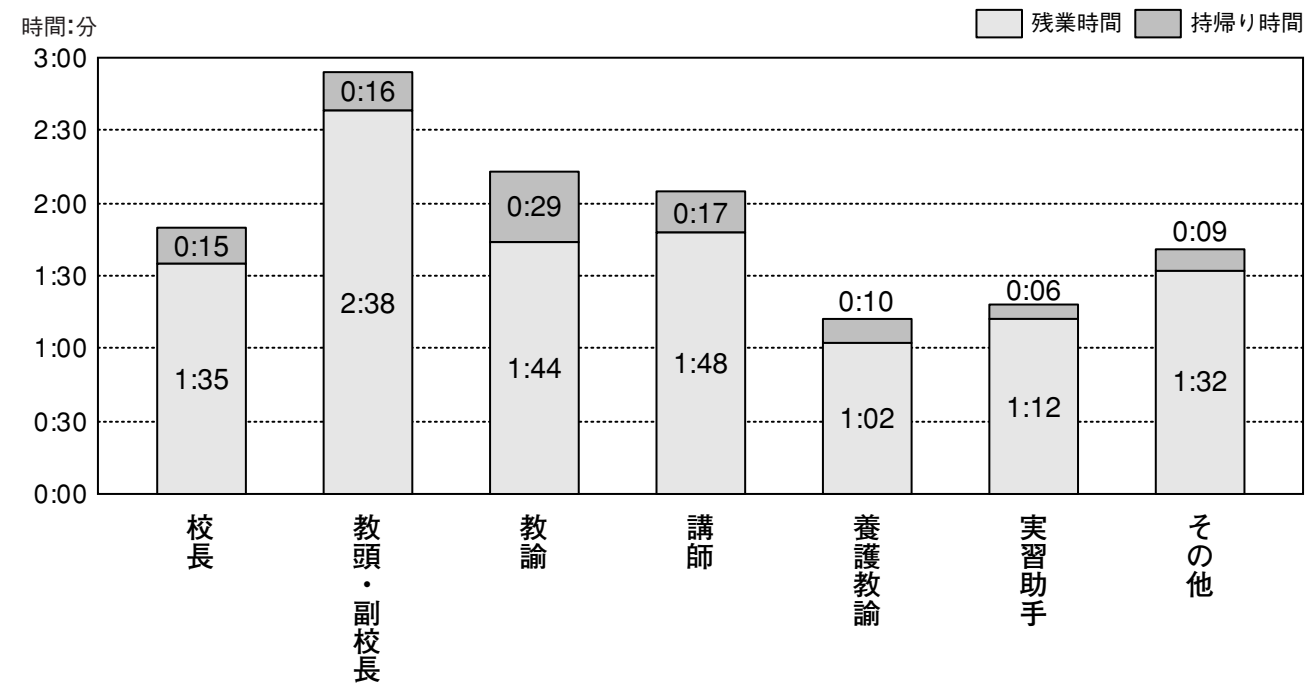
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

(3) 職階別

職階別に、勤務日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-5)。残業時間量の平均については校長、教諭、講師、その他で1時間30分~2時間弱となっている。養護教諭および実習助手では1時間程度とほかより短めだが、教頭・副校長では2時間38分と校長や教諭に比べ1時間程度長い。また、いずれの職についても中央値は平均値と大きな差がない。職階別にかなり一貫した残業時間量の傾向があることがうかがえる。一方、持帰り時間量の平均値については、ほとんどの職階で10分前後となっているが、教諭では29分とほかよりやや長くなっている。いずれの職でも中央値は0分に近く、勤務日の持帰りが一部の教員によって行われていることがうかがえる。

次に、休日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-6)。残業時間量の平均は、校長、教頭・副校長、実習助手では1時間弱、養護教諭では14分と勤務日より少なくなっているが、教諭、講師、その他の教員については1時間30分弱で、勤務日とほぼ変わらない。ただし、中央値をとるといずれも0分となっている。勤務日の残業時間量がほかの職階よりも長い傾向がみられた教頭・副校長は、休日は学校へ行って業務を行うことは比較的少ないようだ。また、持帰り時間量の平均値をみると、校長、教頭・副校長、講師で1時間程度、教諭では1時間30分程度、養護教諭、実習助手、その他の教員で30分程度となっている。中央値で見ると、教頭・副校長と教諭がそれぞれ30分、45分となっており、これらの職階では特に休日の持帰りが一般的にみられることがうかがえる。

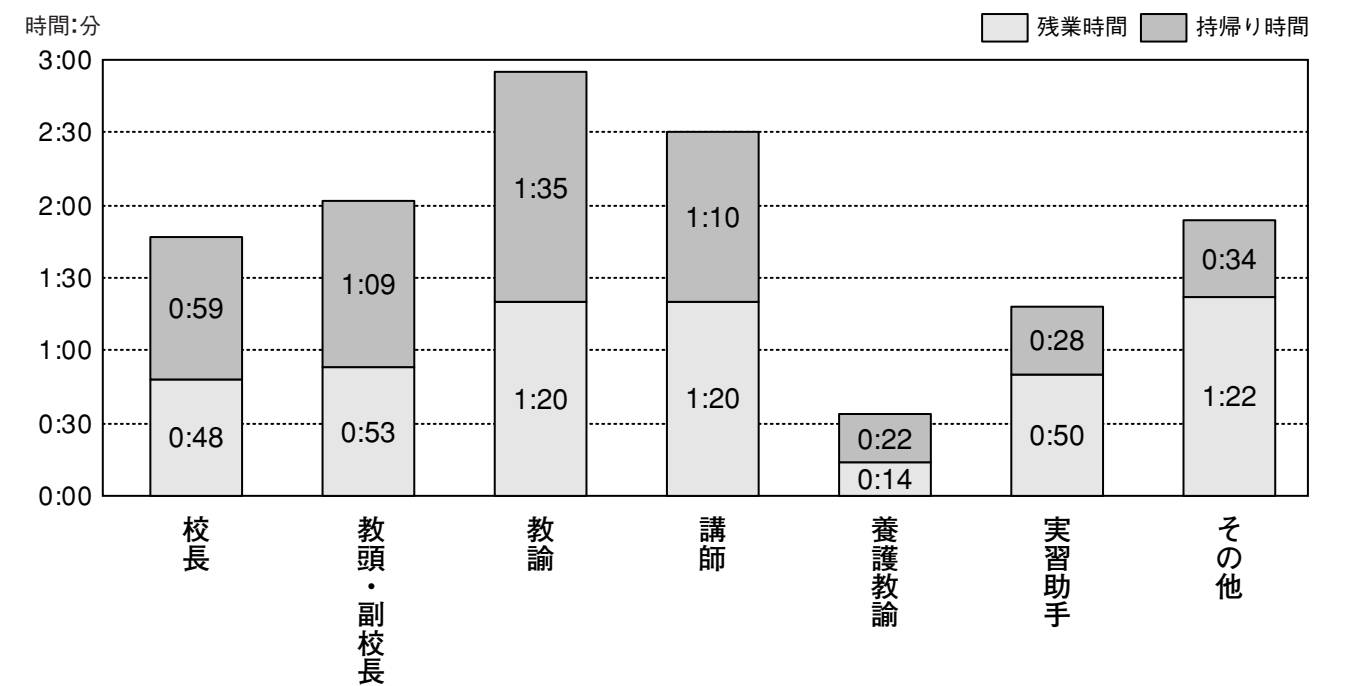
図1-4-5 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(職階別)



		校長	教頭・副校長	教諭	講師	養護教諭	実習助手	その他
残業時間	平均値	1:35	2:38	1:44	1:48	1:02	1:12	1:32
	中央値	1:27	2:33	1:33	1:42	0:48	0:57	1:20
	標準偏差	0.793	0.982	1.055	1.033	0.814	0.951	1.081
持帰り時間	平均値	0:15	0:16	0:29	0:17	0:10	0:06	0:09
	中央値	0:05	0:06	0:09	0:03	0:00	0:00	0:00
	標準偏差	0.427	0.465	0.766	0.517	0.392	0.319	0.412
度数		244	354	10666	631	302	745	86

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

図1-4-6 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(職階別)



		校長	教頭・副校長	教諭	講師	養護教諭	実習助手	その他
残業時間	平均値	0:48	0:53	1:20	1:20	0:14	0:50	1:22
	中央値	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00
	標準偏差	1.430	1.509	2.165	2.286	0.754	1.900	2.366
持帰り時間	平均値	0:59	1:09	1:35	1:10	0:22	0:28	0:34
	中央値	0:07	0:30	0:45	0:12	0:00	0:00	0:00
	標準偏差	1.411	1.538	2.183	1.879	0.927	1.340	1.258
度数		245	356	10607	624	305	739	86

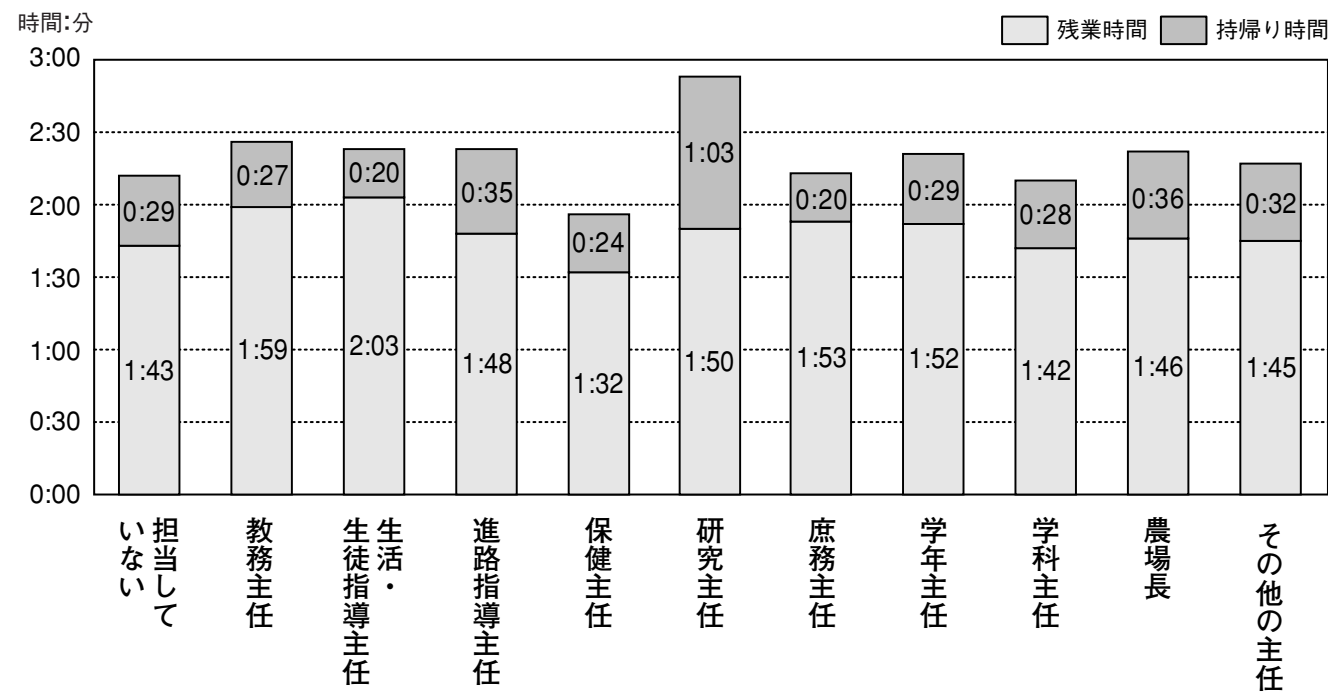
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

(4) 主任別

次に、担当する主任別に残業時間量および持帰り時間量をみてみよう。主任を担当するのは、主に教諭である。ほとんどの校長や教頭・副校長は主任を担当していない。そこで主任を「担当していない」教員への職階の影響を取り除くため、教諭のみを取り出し、主任別で残業時間量、持帰り時間量の順に分析を行う。

まず、勤務日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-7)。残業時間量の平均については、どの主任(その他の主任も含む)の教諭においてもおよそ1時間30分~2時間となっており、主任別による顕著な差はみられない。教務主任や生活・生徒指導主任でやや長くなっており、保健主任でやや短いという結果である。一方、持帰り時間量の平均についてみると、多くの主任が30分前後であるのに対して、研究主任では1時間と長くなっている。授業や指導の時間外を利用して研究を推進する必要がある職掌の特徴が表れているものと思われる。

図1-4-7 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・主任別)



		担当していない	教務主任	生活・生徒指導主任	進路指導主任	保健主任	研究主任	庶務主任	学年主任	学科主任	農場長	その他の主任
残業時間	平均値	1:43	1:59	2:03	1:48	1:32	1:50	1:53	1:52	1:42	1:46	1:45
	中央値	1:30	1:53	1:54	1:37	1:22	1:41	1:40	1:45	1:30	1:28	1:33
	標準偏差	1.048	0.949	1.070	1.023	1.070	0.983	1.208	1.025	1.065	0.811	1.064
持帰り時間	平均値	0:29	0:27	0:20	0:35	0:24	1:03	0:20	0:29	0:28	0:36	0:32
	中央値	0:09	0:11	0:06	0:16	0:06	0:24	0:04	0:10	0:07	0:12	0:09
	標準偏差	0.778	0.672	0.545	0.743	0.726	2.006	0.566	0.850	0.766	0.755	0.794
	度数	5710	275	264	272	228	56	74	757	1038	30	1054

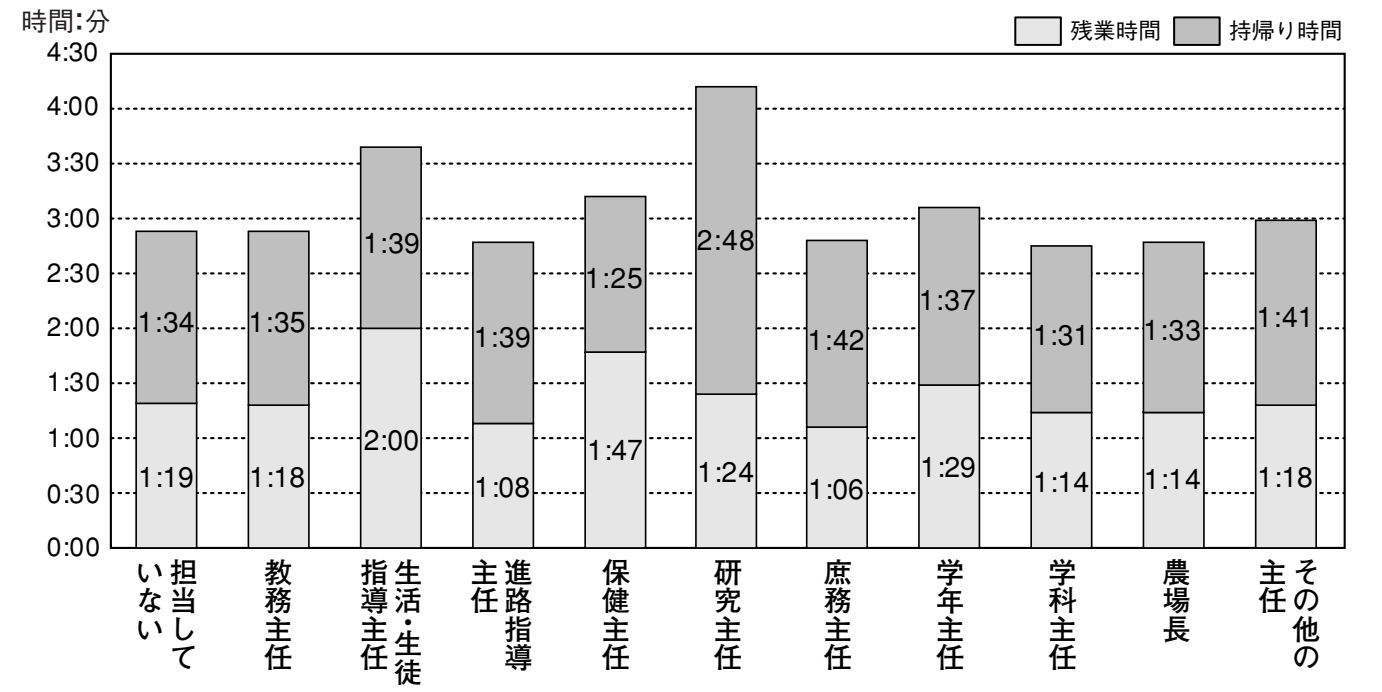
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

次に、休日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-8)。

休日の残業時間量は、1時間強が全体的な傾向となっているが、生活・生徒指導主任では2時間00分、保健主任で1時間47分、研究主任で1時間24分、学年主任で1時間29分と、これらの主任はやや長くなっている。これは、部活動や授業研究といった活動が休日の残業時間量に影響していると考えられる。ただし、中央値をとると生活・生徒指導主任と農場長以外の教諭では0分となっている。休日の残業は少数の教諭によって行われていることがうかがえる。同時に、中央値が52分となっている生活・生徒指導主任においては、休日の残業はかなり一般的な傾向となっていることがわかる。

また、持帰り時間量の平均をみると、ほとんどの主任が1時間30分程度となっているのに対し、研究主任では2時間48分と圧倒的に長くなっている。中央値をとっても2時間となっており、全体的にみて研究主任が休日かなりの仕事をこなしている状況がうかがえる。なお、平均値に大きな差のなかったほかの主任(その他の主任も含む)についても、中央値をみると長短の傾向はかなり異なっている。休日の残業時間量が高い生活・生徒指導主任は、休日の持帰り時間量はほかの多くの主任と同じ程度といえる。

図1-4-8 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・主任別)



		担当していない	教務主任	生活・生徒指導主任	進路指導主任	保健主任	研究主任	庶務主任	学年主任	学科主任	農場長	その他の主任
残業時間	平均値	1:19	1:18	2:00	1:08	1:47	1:24	1:06	1:29	1:14	1:14	1:18
	中央値	0:00	0:00	0:52	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:18	0:00
	標準偏差	2.167	1.845	2.656	1.947	2.557	2.326	1.682	2.264	2.129	1.672	2.083
持帰り時間	平均値	1:34	1:35	1:39	1:39	1:25	2:48	1:42	1:37	1:31	1:33	1:41
	中央値	0:45	0:37	0:26	1:00	0:15	2:00	0:45	0:45	0:30	0:48	0:45
	標準偏差	2.177	2.142	2.515	1.981	2.231	3.739	2.135	2.283	2.126	1.948	2.187
	度数	5680	273	262	271	228	57	74	753	1026	30	1053

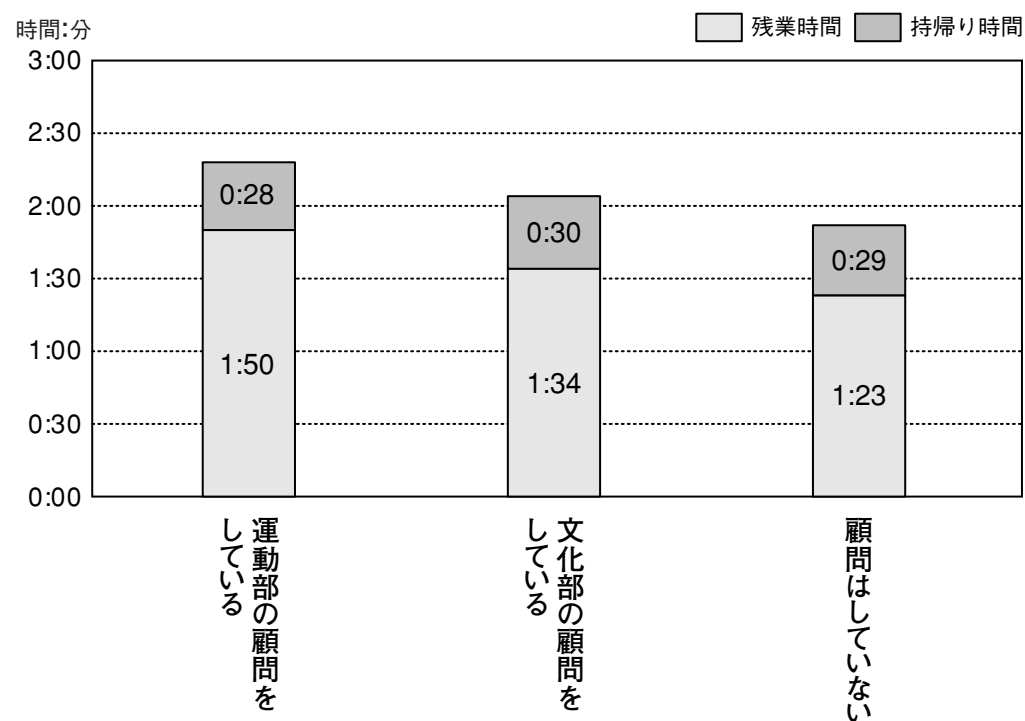
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

(5) 部活動顧問の有無別

まず、勤務日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間量について部活動顧問の有無別にみてみよう(図1-4-9)。「調査の概要」第7節第4項でみた通り、部活動の顧問を担当するのは主に教諭である。「顧問はしていない」教員への役職の影響を取り除くために、教諭のみを取り出し、顧問の有無別で残業時間量、持帰り時間量の順に分析を行う。勤務日の残業時間量の平均については、運動部の顧問で1時間50分、文化部の顧問で1時間34分、顧問はしていない教諭で1時間23分となっており、顧問を担当していない教諭よりも顧問を担当している教諭、顧問を担当している教諭のなかでも、文化部顧問よりも運動部顧問のほうが残業時間量が長くなっていることが読み取れる。一方、勤務日の持帰り時間量の平均については、いずれも30分程度となっており、顧問の種類や有無によって大きな差はない。

次に、休日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間量についてみてみよう(図1-4-10)。残業時間量の平均は、運動部の顧問で1時間38分、文化部の顧問で50分、顧問はしていない教諭で30分となっている。運動部の顧問については、部活動の監督や安全面での監視等が数値に影響しているものと考えられる。ただし、中央値をとると顧問の有無にかかわらず0分となっている。教諭によって残業時間量に差があることがうかがえる。また、持帰り時間量の平均をみると、運動部の顧問で1時間40分、文化部の顧問で1時間27分、顧問はしていない教諭で1時間14分となっている。中央値で見ると、いずれも30~45分となっており、休日の持帰りが顧問の種類や有無にかかわらず一般的にみられることがうかがえる。

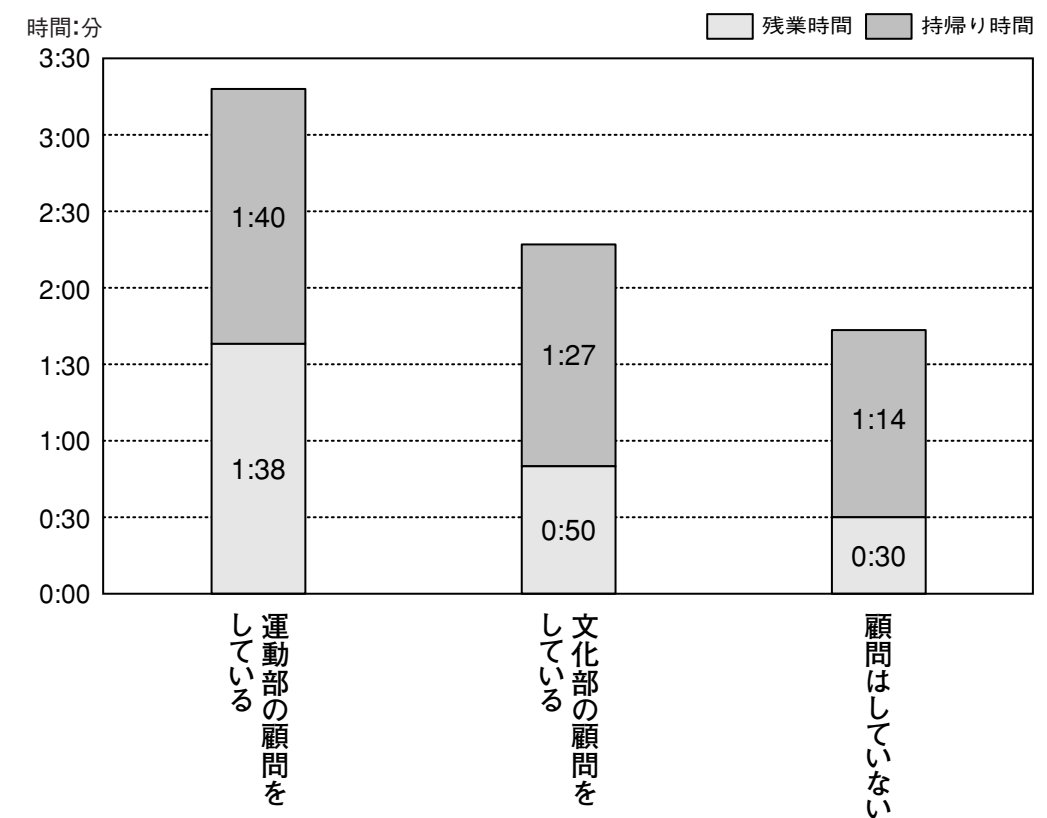
図1-4-9 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・部活動顧問の有無別)



		運動部の顧問をしている	文化部の顧問をしている	顧問はしていない
残業時間	平均値	1:50	1:34	1:23
	中央値	1:41	1:21	0:06
	標準偏差	1.045	1.053	1.028
持帰り時間	平均値	0:28	0:30	0:29
	中央値	0:08	0:11	0:12
	標準偏差	0.775	0.749	0.694
度数		6777	3563	224

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

図1-4-10 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・部活動顧問の有無別)



		運動部の顧問をしている	文化部の顧問をしている	顧問はしていない
残業時間	平均値	1:38	0:50	0:30
	中央値	0:00	0:00	0:00
	標準偏差	2.357	1.689	1.276
持帰り時間	平均値	1:40	1:27	1:14
	中央値	0:45	0:45	0:30
	標準偏差	2.306	1.947	1.736
度数		6726	3557	222

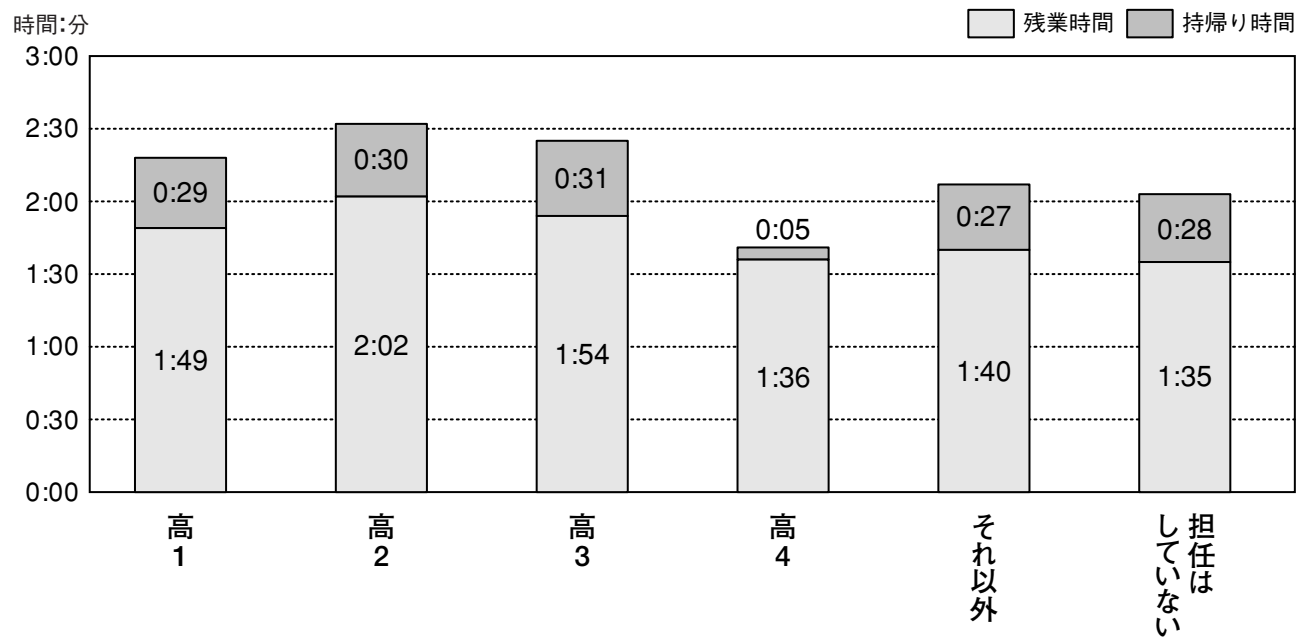
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

(6) 学級担任別

まず、勤務日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間について担任をしている学年別にみてみよう(図1-4-11)。ここでも教諭のみを取り出してみよう。高4の担任は7名ということもあり、参考値として考えたい。勤務日の残業時間の平均は、高1～高3の担任で2時間程度となっており、高4、それ以外、担任はしていないで1時間30分程度となっている。一方、勤務日の持帰り時間の平均については、高4を除き、いずれも30分前後となっている。中央値をみると5～10分程度となっており、平均値とあわせて考えると比較的短時間ではあるものの、勤務日の持帰りが一般的に行われていることがわかる。

次に、休日・1日あたりの平均残業時間および持帰り時間についてみてみよう(図1-4-12)。休日の残業時間の平均は、高2～高4、それ以外で1時間30分前後、高1、担任はしていない教諭で1時間強となっている。ただし、中央値をとると高4を除きいずれも0分となっている。休日に残業を行わない教諭が多い一方で、一部の教諭で1時間以上の残業が行われていることがわかる。また、休日の持帰り時間の平均をみてみると、高4の1時間08分を除きいずれも1時間30分強となっている。中央値でみると、高1～高3で50分程度、高4、それ以外、担任はしていない教諭でそれぞれ34分、30分、37分となっている。休日の持帰りがどの学年の担任にも一般的にみられることがうかがえる。

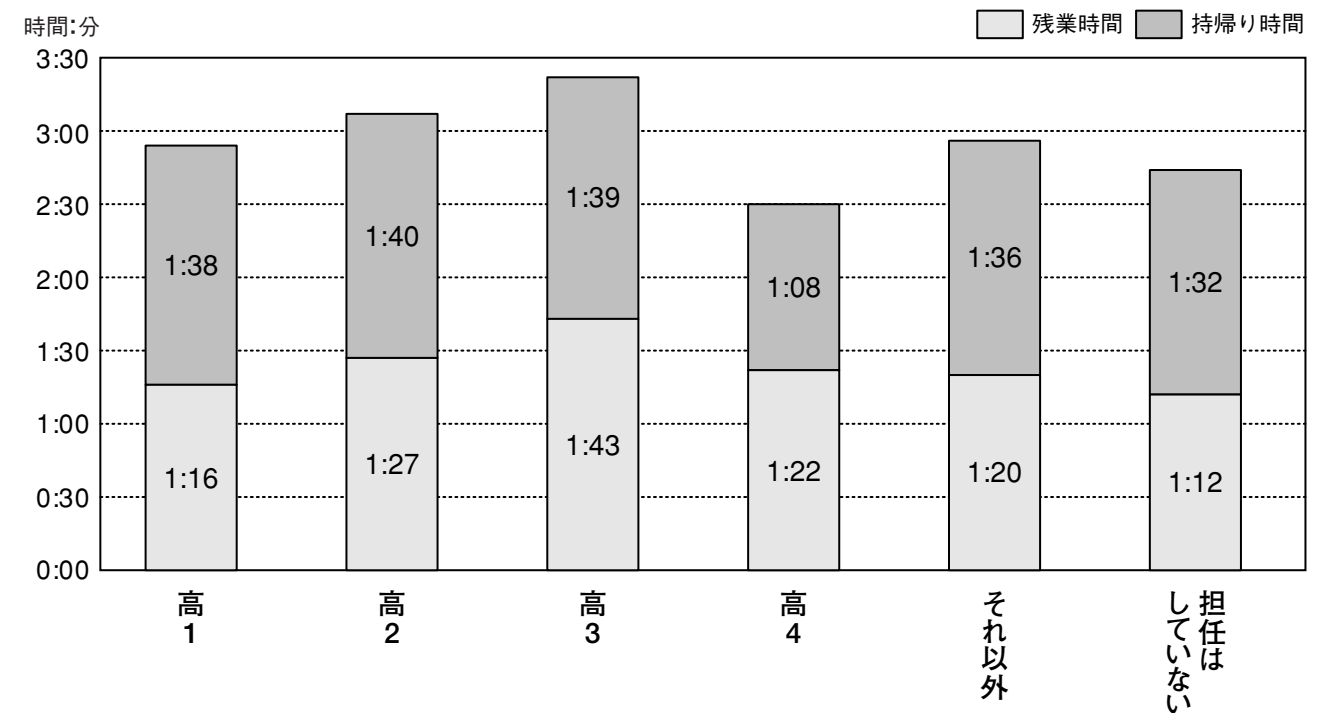
図1-4-11 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・学級担任別)



		高1	高2	高3	高4	それ以外	担任はしていない
残業時間	平均値	1:49	2:02	1:54	1:36	1:40	1:35
	中央値	1:41	1:49	1:46	1:36	1:30	1:24
	標準偏差	1.017	1.209	1.053	1.206	0.943	0.994
持帰り時間	平均値	0:29	0:30	0:31	0:05	0:27	0:28
	中央値	0:10	0:11	0:12	0:00	0:03	0:07
	標準偏差	0.766	0.751	0.736	0.210	0.766	0.779
	度数	1558	1572	1671	7	91	5512

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

図1-4-12 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・学級担任別)



		高1	高2	高3	高4	それ以外	担任はしていない
残業時間	平均値	1:16	1:27	1:43	1:22	1:20	1:12
	中央値	0:00	0:00	0:00	0:40	0:00	0:00
	標準偏差	2.065	2.222	2.427	1.731	2.280	2.089
持帰り時間	平均値	1:38	1:40	1:39	1:08	1:36	1:32
	中央値	0:45	0:52	0:52	0:34	0:30	0:37
	標準偏差	2.226	2.216	2.158	1.266	2.324	2.161
	度数	1552	1562	1651	7	90	5490

平均値、中央値の単位は「時間:分」。

(7) 担当教科別

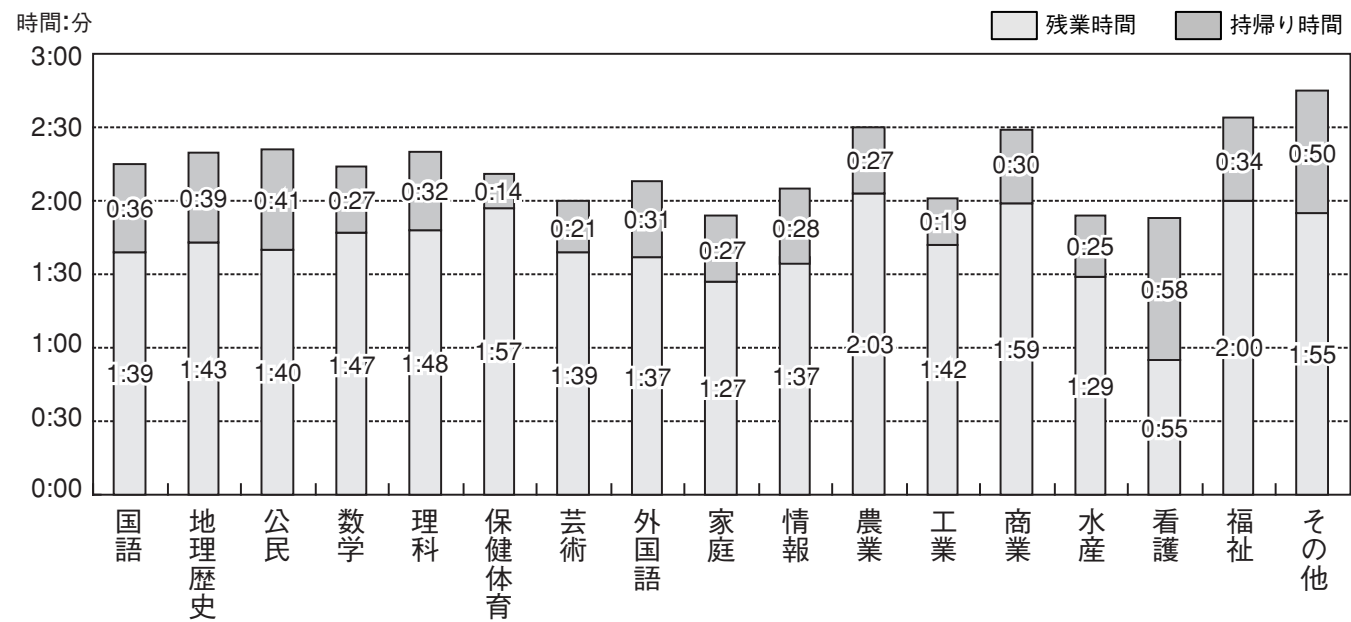
まず、勤務日・1日あたりの平均残業時間量および持帰り時間量について担当している教科別にみてもよい(図1-4-13)。校長、教頭・副校長は教科を担当することは少なく、主に教諭が担当している。そこで、ここでは教諭のみを取り出し、担当教科別に残業時間量、持帰り時間量の順に分析を行う。また、「その他」の教諭は14名ということもあり、参考値として考えたい。

勤務日の残業時間量の平均は、一番短い看護を担当する教諭の55分から一番長い農業の教諭の2時間03分まで担当教科別にみると差がみられる。多くの教諭が1時間30分前後の中、看護(55分)の教諭は比較的短く、農業(2時間03分)、商業(1時間59分)、福祉(2時間00分)、保健体育(1時間57分)の教諭は勤務日の残業時間量が比較的長めのようなのである。

さらに勤務日の持帰り時間量の平均を担当教科別にみてもよい。持帰り時間量についても一番短い保健体育の教諭の14分から一番長い看護の教諭の58分まで差がみられる。

勤務日の残業時間量と持帰り時間量をあわせてみると、①保健体育の教諭は残業時間量は長い一方、持帰り時間量は短い、②看護の教諭は残業時間量は短い一方、持帰り時間量は長い、③農業や商業、福祉の教諭は残業時間量が長いうえに、持帰り時間量も少なくないなど、勤務のパターンはさまざまである。

図1-4-13 勤務日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・担当教科別)



	国語	歴史地理	公民	数学	理科	体育保健	芸術	外国語	家庭	情報	農業	工業	商業	水産	看護	福祉	その他	
残業時間	平均値	1:39	1:43	1:40	1:47	1:48	1:57	1:39	1:37	1:27	1:37	2:03	1:42	1:59	1:29	0:55	2:00	1:55
	中央値	1:30	1:30	1:30	1:36	1:38	1:48	1:26	1:26	1:15	1:21	1:49	1:26	1:47	1:12	0:56	1:48	2:30
	標準偏差	1.016	1.052	0.983	1.038	1.039	1.055	1.062	1.052	0.962	1.074	1.106	1.048	1.185	0.968	0.442	1.033	1.165
持帰り時間	平均値	0:36	0:39	0:41	0:27	0:32	0:14	0:21	0:31	0:27	0:28	0:27	0:19	0:30	0:25	0:58	0:34	0:50
	中央値	0:18	0:16	0:24	0:06	0:12	0:03	0:04	0:12	0:12	0:09	0:08	0:03	0:10	0:00	0:40	0:24	0:10
	標準偏差	0.749	1.059	0.860	0.714	0.762	0.492	0.658	0.799	0.608	0.627	0.668	0.759	0.747	0.860	0.901	0.656	1.405
度数	1372	935	249	1425	1117	1256	402	1605	418	96	235	797	462	36	39	39	14	

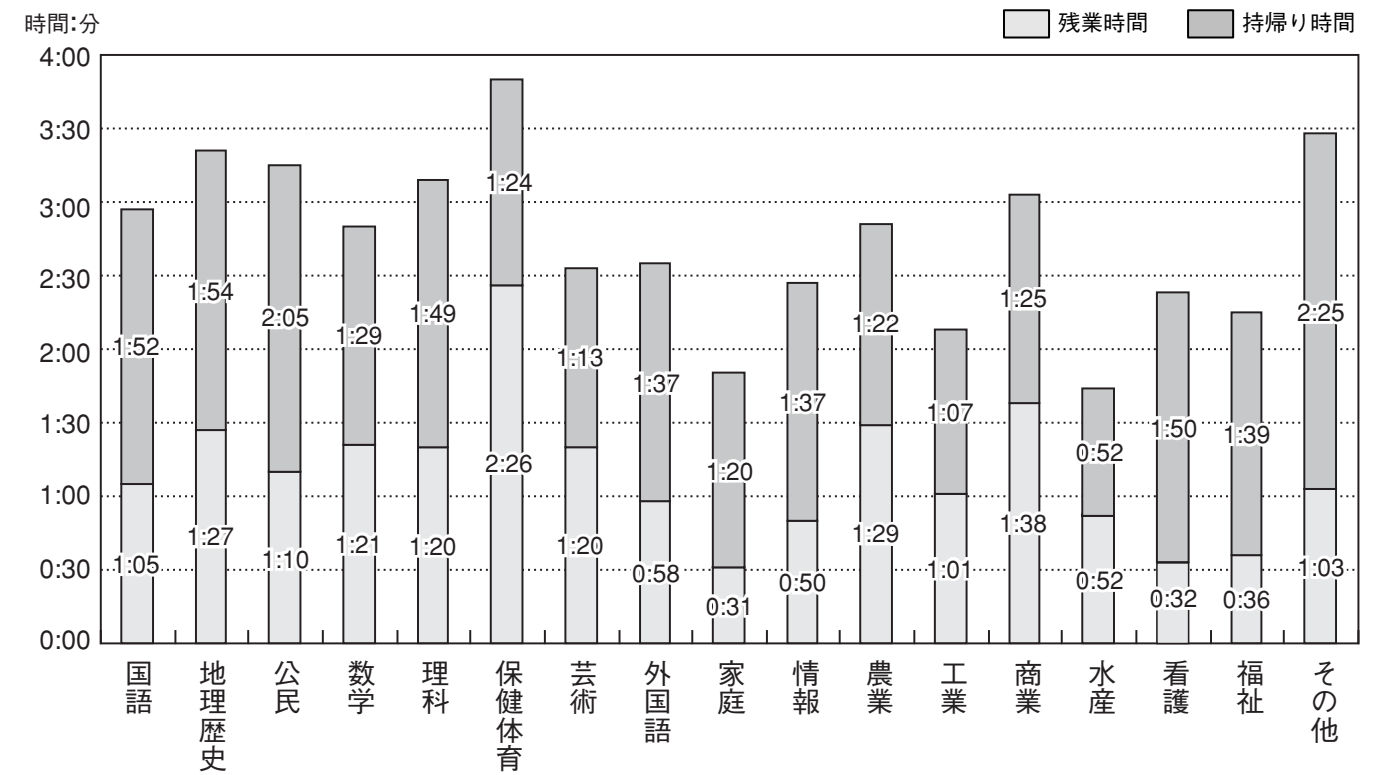
平均値、中央値の単位は「時間:分」。

次に、担当教科別に休日・1日あたりの平均残業時間量と持帰り時間量をみてみよう(図1-4-14)。休日の残業時間量の平均は、一番短い家庭を担当する教諭の31分から一番長い保健体育の教諭の2時間26分まで、勤務日の残業時間量の平均よりさらに大きな差がみられる。このように平均のみに注目すると、どの教科の教諭も休日に30分以上残業を行っているようにみえるが、中央値をみると保健体育とその他の教諭以外は0分となっており、半数以上の教諭は休日に学校で業務を行うことはないようだ。その一方、一部の教諭が休日にも学校に出て業務を行っているということだろう。

つづいて休日の持帰り時間量の平均をみてみよう。持帰り時間量も水産の教諭の52分から公民の教諭の2時間05分まで差がみられる。

残業時間量と持帰り時間量をあわせてみると、保健体育、地理歴史、公民、理科などのいわゆる「普通教育に関する教科・科目」の教諭が比較的残業・持帰り時間量が多いようである。また、「専門教育に関する教科・科目」の教諭のうち、農業、商業の教諭は比較的残業・持帰り時間量が多いが、それ以外の教科を担当する教諭は合計しても2時間30分以下で、比較的短い。

図1-4-14 休日・1日あたりの平均残業時間・持帰り時間量(教諭・担当教科別)



	国語	歴史地理	公民	数学	理科	体育保健	芸術	外国語	家庭	情報	農業	工業	商業	水産	看護	福祉	その他	
残業時間	平均値	1:05	1:27	1:10	1:21	1:20	2:26	1:20	0:58	0:31	0:50	1:29	1:01	1:38	0:52	0:32	0:36	1:03
	中央値	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	1:22	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:00	0:09
	標準偏差	1.936	2.280	1.969	2.047	2.114	2.801	2.189	1.806	1.138	1.700	2.208	2.023	2.484	1.455	1.035	1.289	1.449
持帰り時間	平均値	1:52	1:54	2:05	1:29	1:49	1:24	1:13	1:37	1:20	1:37	1:22	1:07	1:25	0:52	1:50	1:39	2:25
	中央値	1:15	1:07	1:30	0:30	1:00	0:00	0:00	1:00	0:49	0:22	0:30	0:00	0:22	0:00	1:07	1:00	1:30
	標準偏差	2.192	2.304	2.379	2.132	2.330	2.328	1.986	2.078	1.605	2.549	1.930	2.066	2.183	1.533	1.995	2.182	2.983
度数	1375	929	246	1427	1113	1239	397	1600	414	96	227	787	461	36	39	39	14	

平均値、中央値の単位は「時間:分」。